

平成7年度

慶應義塾大学体育研究所

活動報告書

慶應義塾大学体育研究所

目 次

巻頭言 「体育研究所活動報告書（平成7年度）の発刊に寄せて	1
体育研究所所員及び所内組織図	2
平成7年度体育研究所人事	3
体育研究所体育委員会委員	4
第1部 教育分野	5
1. 平成7年度カリキュラム概要と履修統計	6
2. 新カリキュラムにおける体育実技の実施状況について	11
1) 体育実技科目の単位数について	11
2) 体育実技履修状況について	11
(1)各年度の体育実技授業コマ数と定員について	11
(2)各年度の実技履修数	12
(3)定員充足率について	14
3. ウィークリースポーツクラスアンケート集計結果	15
1) 春学期集計結果	15
アンケート用紙	16
全体及び種目別回答率一覧	17
質問1「仮登録を行ったことについて」	18
質問2「春秋学期の履修申込を同時に実施したことについて	20
質問3「履修者の決定方法について」	22
質問4「授業は満足できるものであったか」	23
質問5「体育実技に関する意見」	24
質問6「体育実技を履修した理由について」	26
2) 秋学期集計結果	27
アンケート用紙	28
アンケート回答基礎資料、学部・学年、履修コマ数	30
運動経験と運動実施状況及び質問項目	31
質問項目「履修の動機」「来年度履修計画」	32
5段階評価 a～g	33
5段階評価種目別一覧	34
5段階評価担当者別一覧	35
体育科目に関する要望	38
塾内開催希望イベント	39

第2部 研究分野	40
1. 平成7年度所内研究業績一覧	41
2. 所内定例研究会発表要旨	44
第3部 スポーツ振興分野	49
1. 各種スポーツイベントの開催	50
2. 大学生活懇談会とのタイアップ	51
3. 所内施設の開放	51
エクササイズスタジオの開放	51
トレーニングルームの開放	52
編集後記	54

体育研究所活動報告書（平成7年度）の発行に寄せて

体育研究所 所長

高嶺 隆二

今般、平成8年度の履修関係の業務が一段落したことを機に過去3年間を総括し、報告書をまとめることができた。

大学設置基準の大綱化に伴う塾大学教育カリキュラムの改革により、平成5年度から保健体育科目が選択科目として取り扱われることになった（理工学部は平成8年度より実施）。昭和24年以來必修科目として設置されてきたために、頭の切り替えが難しく試行錯誤の連続であったが、ここにきてようやく落ち着きができたように思われる。本来年次報告はその年度末ごとに取りまとめ報告すべきところを雑事に追われ実現しないままにきてしまっていた。

保健体育科目の開講に当たっては、多様化する学生のニーズに如何に対応するかが最大の課題であった。講義科目（保健衛生・体育理論）、実技科目とも学生の感性に應える姿がなかなか見えてこない中、平成5年度の開始に当たっては手探りでカリキュラムの編成を行った。この中で数多くのアンケート調査を実施し、その結果を基に毎年講義テーマ並びに実技種目の改訂を行ってきた。当初より従来1年次に履修することになっていたものを卒業年次まで履修可能と定め発進したものであったが、3年目の平成7年度になってやっと三田綱町の運動施設で実技種目を開講することとなり、三田キャンパスに通う学生に便宜が図れるようになった。

体育研究所では、塾の体育・スポーツ振興の発信源という意識を持って今後ともその研究、教育に取り組んでいきたいと思う。

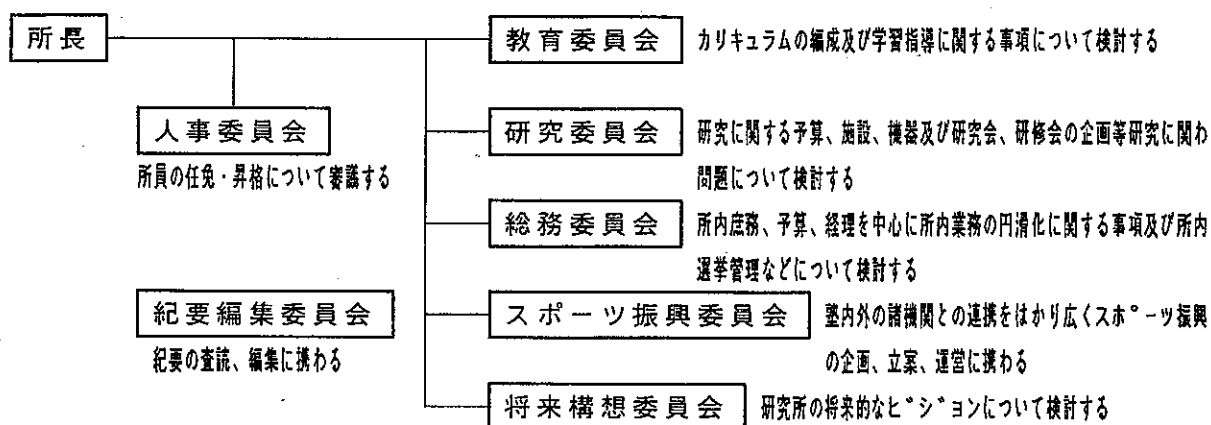
体育研究所所員及び所内組織図

平成 8 年 3 月 31 日 現在

体育研究所所員名簿

氏 名		所属委員会
所長	高嶺 隆二	人事委員会、紀要編集委員会
教授	橋本 治雄	人事委員会、紀要編集委員会
	今栄 貞吉	人事委員会、スポーツ振興委員会、紀要編集委員会
	近藤 明彦	人事委員会、教育委員会、紀要編集委員会
助教授	安藤 勝英	人事委員会、総務委員会
	篠原しげ子	研究委員会
	植田 史生	人事委員会、研究委員会、将来構想委員会
	綿田 博人	スポーツ振興委員会
	松田 雅之	教育委員会
専任講師	清水 直臣	総務委員会
	佐々木玲子	教育委員会、研究委員会
	石手 靖	教育委員会、将来構想委員会
	山内 賢	研究委員会
	吉田 泰将	教育委員会、将来構想委員会
	加藤 大仁	将来構想委員会
助手	村山 光義	研究委員会、総務委員会、将来構想委員会
助手（嘱託）	斉藤 健司	研究委員会、総務委員会
	野口 和行	スポーツ振興委員会
	上向 貫志	教育委員会
	田中 伸明	スポーツ振興委員会

体育研究所組織図



平成7年度体育研究所人事

平成7年4月1日付

高嶺 隆二	(教授)	所長就任
今栄 貞吉	(同)	副所長就任
高嶺 隆二	(助教授)	教授昇格
近藤 明彦	(同)	同
松田 雅之	(専任講師)	助教授昇格
綿田 博人	(同)	同
吉田 泰将	(助手)	専任講師昇格
加藤 大仁	(助手)	同
村山 光義	(助手(嘱託))	助手採用
上向 貫志	(同)	採用
田中 伸明	(同)	採用

平成7年9月30日付

今栄 貞吉	(同)	副所長退任
安藤 勝英	(助教授)	学習指導主任退任
植田 史生	(助教授)	同副主任退任
松田 雅之	(助教授)	同副主任退任
近藤 明彦	(教授)	学習指導主任就任
佐々木 玲子	(専任講師)	同副主任就任
石手 靖	(専任講師)	同副主任就任

平成7年11月1日付

御園生 博	(教務部日吉支部総務課長)	主事就任 兼務
-------	---------------	---------

平成8年3月31日付

斉藤 健司	(助手(嘱託))	退職
-------	----------	----

体育研究所体育委員会委員

(平成8年4月1日現在)

委員長	体育研究所長	高嶺	隆二
委員	文学部長	関場	武
	同日吉主任	末吉	雄二
	経済学部長	飯田	裕康
	同日吉主任	田中	淳一
	法学部長	山田	辰雄
	同日吉主任	筑紫	文耀
	商学部長	黒田	昌裕
	同日吉主任	湯川	武
	医学部長	猿田	享男
	同日吉主任	沼崎	雅行
	理工学部長	安西	祐一郎
	同日吉主任	村瀬	旻
	体育研究所教授	橋本	治雄
	同	今栄	貞吉
	同	近藤	明彦
	体育会理事	池井	優
	保健管理センター所長	斉藤	郁男

第 1 部 教育分野

はじめに

体育研究所の開講する保健体育科目は、講義科目の体育理論（スポーツサイエンス）・保健衛生（ヘルスサイエンス）、実技科目の体育実技Ⅰ（ウィークリースポーツクラス）・体育実技Ⅱ（シーズンスポーツクラス）および通信教育部における体育理論と体育実技である。平成7年度は、講義28コマ、実技326コマを開講し、その詳細は第1節に表示した。また、体育研究所は平成5年度よりカリキュラム改定を実施し、平成7年度までに理工学部以外がすべて選択科目となる中、積極的に保健体育の教育面の改革を進めてきている。その経過について第2節に詳述した。さらに第3節では、学生の声として実施しているアンケート調査の集計結果を、平成7年度ウィークリースポーツ春・秋学期それぞれに掲載した。

1. 平成7年度カリキュラム概要と履修統計

2. 新カリキュラムにおける体育実技の実施状況について

3. ウィークリースポーツクラスアンケート集計結果

1. 平成7年度カリキュラム概要と履修統計

表1-1. 体育実技担当者および担当種目

平成7年度体育実技Ⅰ担当表

体育研究所専任教員

	氏名	担当種目
教授	橋本治雄	ゴルフ
	今栄貞吉	体力UPコース
	高嶺隆二	水泳、体力UPコース
	近藤明彦	陸上競技、ジョギング、テニス、サッカー
助教授	安藤勝英	柔道、柔道(三田)
	篠原しげ子	ダンス
	植田史生	剣道、ソフトボール、卓球
	綿田博人	野球、ソフトボール
	松田雅之	陸上競技、ジョギング、体力UPコース、卓球
専任講師	清水直臣	ゴルフ
	佐々木玲子	エアロビクス、ダンス(三田)
	石手 靖	バレーボール
	山内 賢	ハンドボール、バスケットボール、 ニュースポーツ、体力UPコース
	吉田泰将	剣道、剣道(三田)、ソフトボール、体力UPコース
	加藤大仁	バスケットボール
助手	村山光義	バレーボール、卓球
	斉藤健司	バドミントン
	野口和行	ハンドボール、バレーボール、ニュースポーツ
	上向真志	サッカー
	田中伸明	テニス
非常勤講師		
	氏名	担当種目
	青樹茂彰	ホッケー(秋学期)
	稲田周平	合気道、合気道(三田)
	織田浩志	ホッケー(春学期)
	魚住剛一郎	バスケットボール
	勝又 宏	ソフトボール、野球
	加藤幸司	バドミントン
	木塚孝幸	バスケットボール
	日馬雄紀	バスケットボール
	清水誠治	剣道(三田)
	菅原由美子	シンクロナイズドスイミング
	須田芳正	サッカー
	内藤尚男	ソフトテニス
	早川靖彦	ラクロス
	堀場雅彦	テニス
	松本 潔	卓球
	湯田秀行	サッカー

平成7年度体育実技Ⅱ実技指導員

実技種目名	実技指導員
アウトドアレクリエーション	吉田泰将
アメリカンフットボール	高木晴彦
サッカー	小森秀二
ソフトボール	老川昭穂
バスケットボール	吉川政宏
バドミントン	吉田格麿
バレーボール	竹内正和
フェンシング	佐藤秀明
ボクシング	砂押雅夫
ヨット	斎藤 渉
ラグビー	小野寺孝
弓 術	吉岡 貴
空 手	中野喜一郎
剣 道	清水誠治
硬式野球	後藤寿彦
自動車	前島徹也
柔 道	安藤勝英
重量拳	関司翔一
少林寺拳法	中島正樹
水 泳	伊藤基孝
卓 球	近光 護
軟式野球	丸井徳三郎
馬 術	横山武次
陸上競技	松田雅之
エアロビクス	佐々木玲子
ゴルフ	浅川辰彦
ソフトテニス	桑野正位
テニス	堀場雅彦
ハンドボール	上原雅敏
ホッケー	織田浩志
レスリング	伊藤 勉
器械体操・新体操	宮崎正己
合気道	岡部英紀
山 岳	岩永治郎
相 撲	石井誠一郎
端 艇	高橋一栄
洋 弓	島山雅一郎
スキー	吉田久男
スケート	福水田夫

表1-2.
平成7年度体育実技I（ウィークリースポーツクラス）履修者統計

種目名	コマ数			総定員	履修者	充足率	仮登録時 平均倍率
	春学期	秋学期	年間 合計				
日吉地区							
ソフトテニス	1	1	2	60	45	75.0	1.15
ホッケー	1	1	2	80	66	82.5	0.84
合気道	1	1	2	80	76	95.0	1.34
シカナイバドミントン	1	1	2	40	8	20.0	0.30
ジョギング	2	2	4	120	83	69.2	0.69
ラクロス	2	2	4	140	110	78.6	1.14
ハンドボール	2	2	4	220	200	90.9	0.65
陸上競技	3	3	6	180	107	59.4	0.37
柔道	3	3	6	180	139	77.2	0.53
水泳	4	2	6	180	163	90.6	1.13
エアロビクス	4	4	8	240	189	78.8	0.94
剣道	5	5	10	300	127	42.3	0.30
ダンス	5	5	10	200	147	73.5	0.86
ニュースポーツ	5	5	10	340	296	87.1	0.74
卓球	6	6	12	340	274	80.6	1.51
野球	7	7	14	340	286	84.1	1.12
体力UPコース	7	9	16	380	339	89.2	1.41
バドミントン	8	8	16	488	437	89.5	1.60
ゴルフ	9	9	18	540	387	71.7	1.80
ソフトボール	9	11	20	768	646	84.1	1.57
テニス	11	11	22	560	421	75.2	2.83
サッカー	11	11	22	790	650	82.3	1.56
バレーボール	13	13	26	900	714	79.3	1.27
バスケットボール	14	14	28	885	694	78.4	1.97
日吉地区合計・平均	134	136	270	8351	6604	76.4	1.15
三田地区							
テニス	1	1	2	20	16	80.0	0.30
ダンス	1	1	2	60	20	33.3	0.47
合気道	1	1	2	30	24	80.0	0.30
柔道	2	2	4	120	26	21.7	0.16
剣道	3	3	6	140	21	15.0	0.10
三田地区合計・平均	8	8	16	370	107	46.0	0.27
ウィークリースポーツ合計	142	144	286	8721	6711	71.2	1.00

表1-3.
平成7年度体育実技Ⅱ（シーズンスポーツクラス）履修者統計

種目名	コマ数		総定員	履修者	充足率	仮登録時 平均倍率
	時期	年間				
アウトドアレクリエーション	7月	1	40	39	97.5	5.00
アメリカンフットボール	7月	1	30	33	110.0	0.70
サッカー	7月	1	50	46	92.0	2.08
ソフトボール	7月	1	100	96	96.0	0.59
バスケットボール	7月	1	75	61	81.3	1.32
バドミントン	7月	1	50	42	84.0	2.08
バレーボール	7月	1	100	99	99.0	0.58
フェンシング	7月	1	40	37	92.5	0.30
ボクシング	7月	1	30	35	116.7	1.13
ヨット	7月	1	50	39	78.0	0.94
ラグビー	7月	1	50	37	74.0	0.58
弓術	7月	1	40	36	90.0	3.05
空手	7月	1	40	41	102.5	0.88
剣道	7月	1	30	31	103.3	0.30
硬式野球	7月	1	40	41	102.5	0.75
自動車	7月	1	70	65	92.9	2.06
柔道	7月	1	30	33	110.0	0.47
重量拳	7月	1	16	10	62.5	0.31
少林寺拳法	7月	1	20	38	190.0	1.70
水泳	7月	1	150	152	101.3	0.80
卓球	7月	1	60	60	100.0	1.57
軟式野球	7月	1	50	47	94.0	0.94
馬術	7月	1	50	31	62.0	2.40
陸上競技	7月	1	30	34	113.3	0.73
エアロビクス	9月	1	30	27	90.0	1.53
ゴルフ	9月	1	80	74	92.5	2.50
ソフトテニス	9月	1	50	39	78.0	1.16
テニス	9月	1	81	48	59.3	2.21
ハンドボール	9月	1	40	28	70.0	1.00
ホッケー	9月	1	35	29	82.9	1.49
レスリング	9月	1	15	19	126.7	0.60
器械体操	9月	1	20	17	85.0	0.60
合気道	9月	1	40	35	87.5	1.08
山岳	9月	1	60	38	63.3	1.23
新体操	9月	1	20	16	80.0	0.20
相撲	9月	1	10	6	60.0	0.60
端艇	9月	1	40	41	102.5	0.93
洋弓	9月	1	40	33	82.5	1.65
スキー	2月	1	200	133	66.5	2.44
スケート	2月	1	200	106	53.0	0.29
シーズンスポーツ合計		40	2202	1872	90.6	1.27

表1-4. 講義科目テーマおよび担当者

体育理論(スポーツサイエンス)

学期	曜日時限	講義テーマ	担当者教員	履修者数
春学期	火・2時限	アウトドアレクリエーションへの招待	村山光義・野口和行	23
春学期	火・4時限	スポーツ文化論	植田史生・綿田博人・松田雅之	10
春学期	木・2時限	アスリートのためのスポーツ医・科学	近藤明彦・佐々木玲子・大西祥平 (スポーツ医学研究センター)	48
春学期	木・5時限	スポーツ社会学	近藤明彦・加藤大仁・野口和行	6
春学期	金・2時限	現代生活とスポーツ	篠原しげ子	26
春学期	金・3時限	スポーツ上達の基礎知識②	高嶺隆二・綿田博人	21
秋学期	火・4時限	スポーツ上達の基礎知識①	植田史生・石手 靖	10
秋学期	水・2時限	健康体力科学	今栄貞吉・安藤勝英・山内 賢	19
秋学期	木・2時限	スポーツ心理学	近藤明彦	33
秋学期	木・3時限	身体運動の科学	佐々木玲子	38
秋学期	金・2時限	スポーツと身体の基本理論	吉田泰将	26
秋学期	金・3時限	スポーツと法	高嶺隆二・斎藤健司	9
		合計		269

保健衛生(ヘルスサイエンス)

学期	曜日時限	講義テーマ	担当者教員	履修者数
春学期	月・3時限	現代医学のoverview	南里清一郎(保健管理センター)	25
春学期	月・4時限	"	斉藤郁夫(保健管理センター)	21
春学期	火・1時限	"	河辺博史(保健管理センター)	24
春学期	火・5時限	"	永野志朗(保健管理センター)	11
春学期	水・5時限	医学概論	橋本治雄	31
春学期	木・3時限	現代医学のoverview	中里優一(保健管理センター)	33
春学期	木・5時限	医学概論	橋本治雄	26
秋学期	月・3時限	現代医学のoverview	南里清一郎(保健管理センター)	9
秋学期	月・4時限	"	斉藤郁夫(保健管理センター)	4
秋学期	火・1時限	"	河辺博史(保健管理センター)	5
秋学期	火・5時限	"	永野志朗(保健管理センター)	8
秋学期	水・5時限	医学概論	橋本治雄	13
秋学期	木・3時限	現代医学のoverview	中里優一(保健管理センター)	22
秋学期	木・4時限	ライフサイクルにおける保健管理のチェックポイント	木村慶子(保健管理センター)	30
秋学期	木・5時限	医学概論	橋本治雄	8
		合計		270

表1-5. 通信教育部関係保健体育科目担当表

平成7年度通信教育部夏期スクーリング体育科目
体育実技

種目名	担当教員	総定員	履修者	充足率	仮登録時 平均倍率
ゴルフⅠ(初級)	清水直臣	30	30	100.0	3.73
ゴルフⅡ(上級)	村山雅春(非常勤講師)	20	20	100.0	2.35
キャリスセニックス	今栄貞吉	30	30	100.0	1.60
ソフトボール	綿田博人・田中申明	40	39	97.5	0.97
バスケットボール	加藤大仁・山内 賢	50	50	100.0	1.10
バドミントン	斉藤健司	30	30	100.0	1.97
バレーボール	石手 靖・上向貫志	100	50	50.0	0.50
剣 道	植田史生・吉田泰将	30	8	26.7	0.27
柔 道	安藤勝英	30	9	30.0	0.30
ダンス	篠原しげ子	30	30	100.0	1.93
エアロビクス	佐々木玲子	60	60	100.0	1.25
水 泳	高嶺隆二	100	89	89.0	0.89
卓 球	松田雅之	30	30	100.0	1.90
陸上競技	近藤明彦	30	9	30.0	0.30
レジャースポーツ	村山光義・野口和行	80	46	57.5	0.57
通信教育部夏期スクーリング合計		690	530	78.7	1.3

総合教育科目 保健体育科目

体育理論①	担当教員	松田雅之
-------	------	------

2. 新カリキュラムにおける体育実技の実施状況について

平成5年度より始まった新カリキュラムにより保健体育科目は選択科目となり3年が経過した。この3年間の体育実技の実施状況ならびに平成8年度における実技科目の設置予定についてその概略を以下に示す。

1. 体育実技科目の単位数について

新カリキュラムにおいては、卒業単位として認められる保健体育科目の単位数の上限が各学部によって異なる。

文学部		4単位
経済学部		6単位
法学部	法律学科	16単位
	政治学科	24単位
商学部		4単位
医学部		自由科目
理工学部		2単位

*理工学部は平成7年度まで必修科目として2単位

2. 体育実技履修状況について

(1) 各年度の体育実技授業コマ数と定員について

カリキュラム改定後の各年度の体育実技コマ数とその定員は表1に示す通りである。体育研究所では、各種スポーツ種目に対する学生のニーズ、限りある実技実施場所等を考慮し、各スポーツ種目ごとの授業コマ数の増減を行うなど、選択科目に適した授業展開を行っている。平成8年度における開講予定科目数は45科目である。また、平成7年度より三田においても体育実技Ⅰ(ウイークリスポーツ)を開設している。

表2-1. 年度別体育実技コマ数と定員(三田設置科目は内数で示す)

	体育実技Ⅰ (ウイークリスポーツ)		体育実技Ⅱ (シーズンスポーツ)		全体	
平成5年度	236コマ	8344人	41コマ	3915人	277コマ	12259人
平成6年度	266コマ	8548人	44コマ	3237人	310コマ	11785人
平成7年度 (三田)	286コマ (16コマ)	8721人 (370人)	40コマ	2202人	328コマ	10923人
平成8年度 (三田)	300コマ (30コマ)	8757人 (666人)	40コマ	2251人	340コマ	11008人

(2) 各年度の実技履修数

図2-1は平成5年度から7年度までの体育実技の履修者数の推移を示したものである。旧カリキュラムでは1年次に体育実技の単位を履修習得することが原則であったが、新カリキュラムでは、4年次まで履修可能となっている。履修者実数から見ると、平成5年度では新入生の約2/3が体育実技を履修しているが、平成6・7年度になると2・3年生の履修者が増加したため相対的に1年生の履修者数が減少する傾向を示している。

延べ履修者数から見ると、各年度とも約8500人前後である。

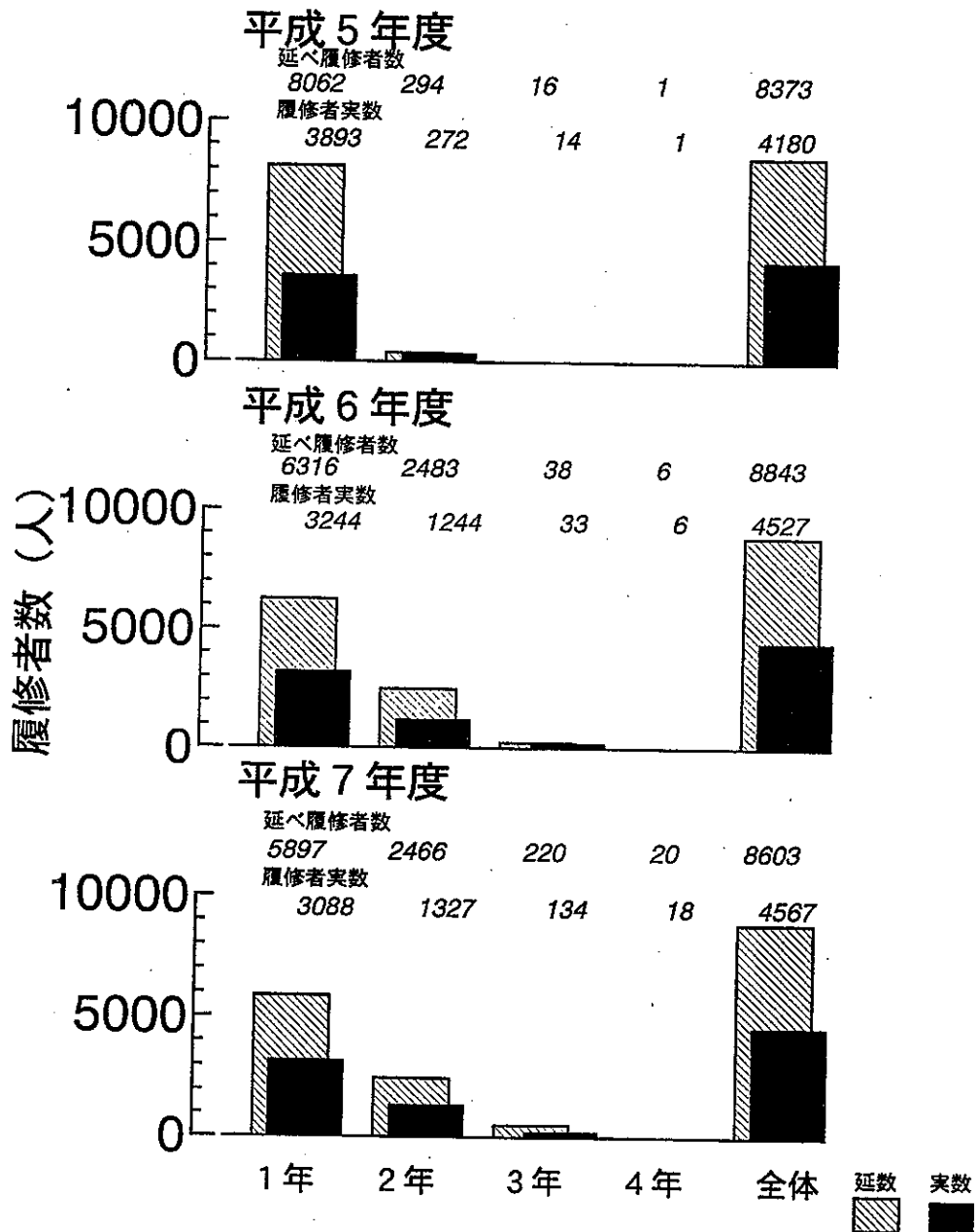


図2-1. 各年度の履修者実数と延べ履修者数の推移

また、各学部別の履修者実数は表 2 - 2 の通りである。

表 2 - 2. 学部別履修者実数

	平成5年度	平成6年度	平成7年度
文学部	676	629	633
経済学部	743	881	955
法学部（法律）	404	506	493
法学部（政治）	401	500	481
商学部	742	808	729
医学部	23	12	10
理工学部	1191	1191	1266

次に、これまでの各年度ごとの統計を3年間累積した場合の履修者実数を学年ごとの在籍者数に対する%で示したのが図 2 である。平成5年の入学生の場合、約70%の学生が体育実技を履修したことになる。

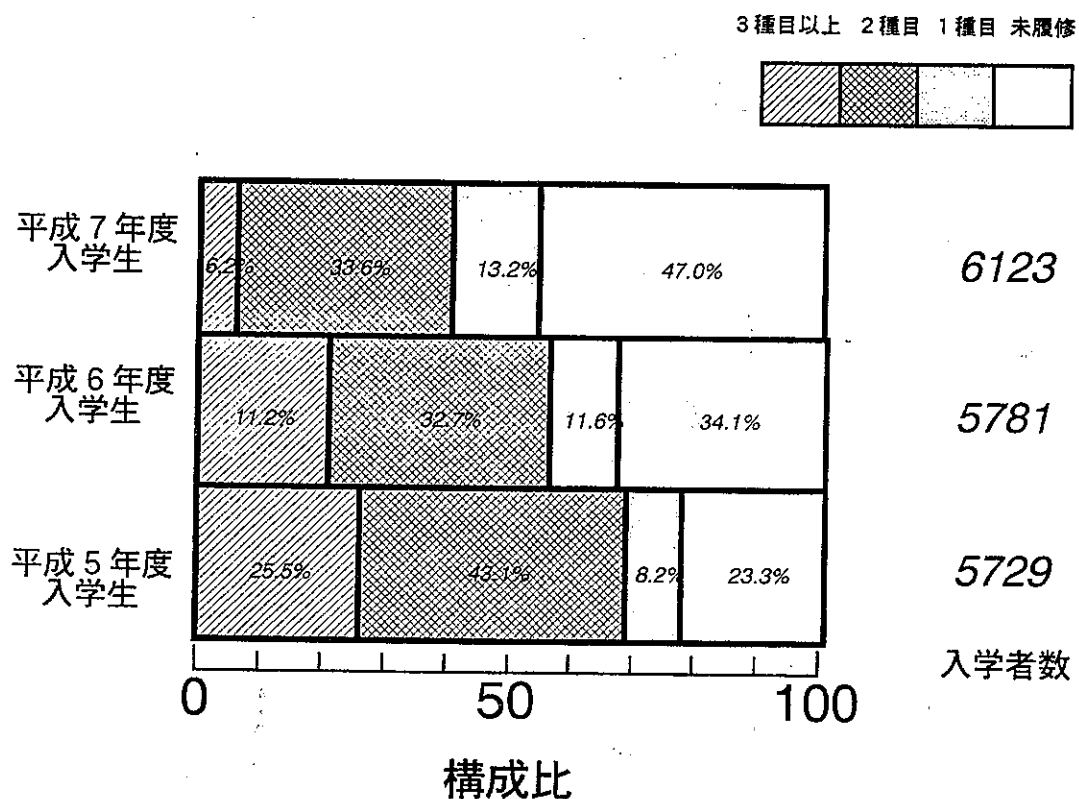


図 2 - 2. 平成5年から7年までの3年間の累積による体育実技履修者実数

(3) 定員充足率について

定員充足率に関しては、各年度とも80%弱という状況であるが、これには履修手続き上の問題があった。平成7年度には、仮登録後、次のような状況で本登録をしない学生が多数いた。(延べ人数による)

表2-3 履修確定までの流れ

	体育実技Ⅰ (ウィークリースポーツ)	体育実技Ⅱ (シーズンスポーツ)	全体
定員	8721	2202	10923
仮登録申告者数	11827	2933	14760
落選数	4132	1075	5207
本登録許可者数	7695	1858	9553
追加登録許可者数	1349	447	1796
本登録許可者合計	9044	2305	11349
本登録者数			8710
取捨て数			2639

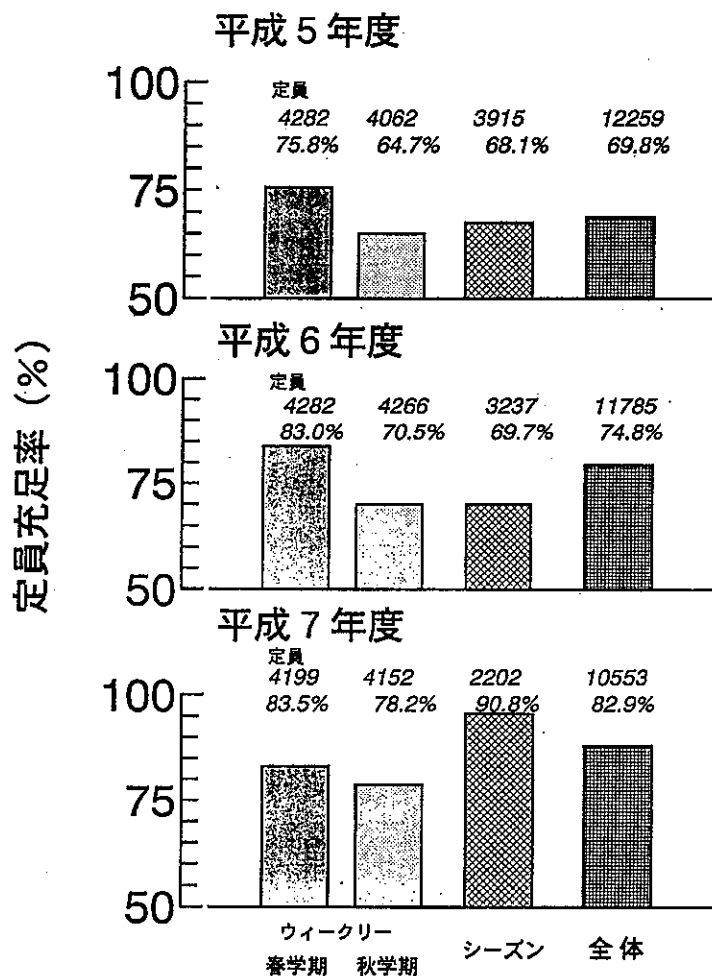


図2-3. 各年度の定員充足率

3. ウィークリースポーツクラスアンケート集計結果

新カリキュラムに移行してから、体育実技の改善を目指し、学生の意見を取り上げようと、アンケート調査を実施して来ている。平成7年度も、ウィークリー・シーズンスポーツとも春・秋学期終了時、各シーズンスポーツ終了時にアンケートを実施した。

以下は、ウィークリースポーツの春学期末（7月）、秋学期末（11月）に実施したアンケートの集計結果で、平成7年度中に、実技担当の専任・非常勤講師に報告したものである。

平成7年度「体育実技に関するアンケート」（春学期実施）集計結果

アンケート用紙

質問1、2、4、5 全体及び種目別回答率一覧

質問1「仮登録を実施したことについて」

質問2「春秋学期の履修申込を同時に実施したことについて」

質問3「履修者の決定方法について」

質問4「授業は満足できるものであったか」

質問5「体育実技に関する意見」

質問6「体育実技を履修した理由について」

平成7年度体育実技に関するアンケート

体育研究所

種目名			曜日時限		曜限	
学部	文・経・法(法・政)・商・医・理	学年	性別	男・女	年齢	才

今年度、あなたが履修した体育実技の時間数をそれぞれ記入して下さい。

体育実技 I	春学期: コマ	秋学期: コマ	体育実技 II:	種目
--------	--------------	--------------	----------	----

※以下該当する番号一つに○をして下さい。

(1) 仮登録を行ったことについてどの様に思いますか。

1. 適当である 2. どちらとも言えない 3. 適当でない

理由、意見等

(2) 春・秋学期の履修申し込みを同時(4月)に行なったことについてどの様に思いますか。

1. 適当である 2. どちらとも言えない 3. 春秋別々が良い

理由、意見等

(3) 履修者の決定方法に関する意見を述べて下さい。

(例) 抽選が望ましい・先着順が望ましい

(4) この授業はあなたにとって満足のできるものでしたか。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

(5) 体育実技に関する意見を述べて下さい。

(6) 体育実技を履修した主な理由を次の中から選んで下さい。(複数回答可)

1. 各種目の技術レベル向上及び技術修得のため
2. 体力向上のため
3. 運動不足解消及び健康の維持増進のため
4. 楽しみとして愛好するため
5. 単位を修得するため
6. その他(具体的に: _____)

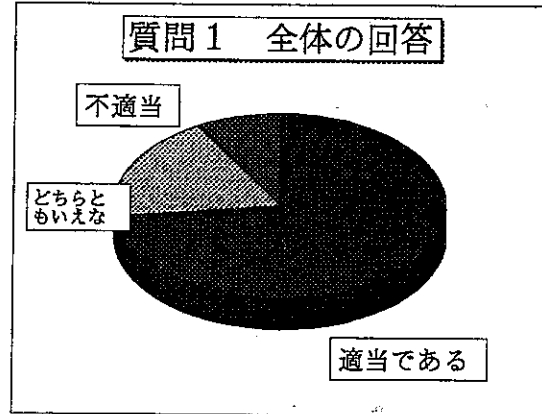
以上で質問を終了します。御協力ありがとうございました。

平成7年度春学期ウイークリースポーツアンケート 種目別集計結果 パーセンテージ

種目	(1)		(2)		(4)		(6)									
	質問	返答数	返答率	返答率	返答率	返答率	授業を履修した主な理由									
	返答数	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	返答率	
ソフトボール	280	72.1	20.4	6.1	37.9	14.6	44.3	82.5	5.4	12.1	9.6	16.4	61.1	75.4	44.3	1.8
バスケットボール	273	69.6	16.8	12.8	39.6	13.9	46.5	91.6	0.7	5.9	34.4	38.1	63.7	7.7	41.8	1.8
バレーボール	205	65.4	21.5	13.2	40.5	12.2	47.3	93.7	2.9	3.4	22.4	31.7	62.4	75.6	49.3	5.4
サッカー	202	76.7	14.9	8.4	38.1	17.3	44.1	91.6	1.5	5.4	26.2	29.7	61.4	81.2	40.1	2.0
バドミントン	157	75.8	15.9	7.0	40.8	12.7	46.5	83.4	3.2	10.8	15.3	15.3	54.8	61.8	52.9	3.8
ニュースポーツ	116	75.9	18.1	4.3	42.2	12.9	44.8	89.7	0.0	9.5	7.8	12.1	61.2	55.2	64.7	6.0
体力アップ	102	75.5	19.6	4.9	35.3	18.6	46.1	97.1	0.0	2.0	2.0	21.6	15.7	2.0	6.9	1.0
卓球	102	75.5	18.6	5.9	44.1	14.7	41.2	91.2	2.0	6.9	10.8	9.8	46.1	73.5	60.8	5.9
テニス	89	77.5	16.9	5.6	48.3	12.4	39.3	87.6	0.0	12.4	59.6	21.3	40.4	73.0	34.8	7.9
ハンドボール	75	68.0	16.0	9.3	50.7	20.0	29.3	76.0	0.0	17.3	8.0	22.7	57.3	48.0	41.3	4.0
水泳/カ	75	80.0	13.3	4.0	29.3	26.7	44.0	92.0	2.7	1.3	33.3	46.7	65.3	61.3	30.7	4.0
ゴルフ	63	76.2	12.7	11.1	39.7	15.9	44.4	92.1	0.0	6.3	57.1	19.0	41.3	69.8	49.2	7.9
ダンス	56	62.5	26.8	10.7	37.5	19.6	42.9	73.2	0.0	23.2	19.6	33.9	73.2	53.6	51.8	7.1
剣道	52	69.2	25.0	3.8	40.4	13.5	46.2	92.3	0.0	7.7	48.1	38.5	63.5	59.6	50.0	9.6
野球/カ	42	71.4	28.6	0.0	21.4	26.2	52.4	100.0	0.0	0.0	11.9	38.1	88.1	57.1	40.5	4.8
野球	39	61.5	25.6	12.8	61.5	10.3	25.6	69.2	5.1	25.6	33.3	23.1	51.3	82.1	41.0	0.0
合気道	34	67.6	20.6	5.9	32.4	11.8	52.9	100.0	0.0	0.0	38.2	23.5	55.9	58.8	29.4	2.9
陸上競技	34	79.4	14.7	5.9	47.1	11.8	41.2	67.6	2.9	26.5	20.6	38.2	52.9	41.2	26.5	0.0
ジギョウ	22	63.6	4.5	31.8	50.0	13.6	36.4	77.3	0.0	22.7	13.6	40.9	68.2	27.3	72.7	13.6
ソフト	13	76.9	15.4	7.7	38.5	7.7	53.8	69.2	15.4	15.4	23.1	7.7	61.5	84.6	46.2	7.7
ホッケー	9	55.6	22.2	11.1	22.2	0.0	77.8	77.8	0.0	11.1	11.1	11.1	33.3	66.7	33.3	11.1
カ	8	75.0	25.0	0.0	62.5	12.5	25.0	87.5	0.0	12.5	25.0	12.5	50.0	87.5	75.0	0.0
柔道	6	83.3	16.7	0.0	33.3	0.0	66.7	100.0	0.0	0.0	66.7	50.0	83.3	50.0	16.7	33.3
平均	89.3	72.3	18.4	8.3	40.1	15.1	44.3	88.0	1.9	8.7	23.0	25.7	57.2	56.7	43.9	4.0
SD	79.85	6.72	5.32	6.40	9.86	6.19	11.26	10.03	3.34	8.08	17.54	12.25	15.21	21.96	15.87	6.80
総和	2054	1485	377	171	823	310	909	1808	40	179	473	528	1174	1164	902	82
+1SD		79	23.7	14.7	49.9	21.3	55.5	98.1	5.29	16.8	40.6	38	72.4	78.6	59.8	10.8
-1SD		65.6	13	1.93	30.2	8.91	33	78	-1.4	0.64	5.48	13.5	41.9	34.7	28	-2.8

質問1 仮登録の実施について

全体平均で72%が適当であると回答したが、
nの多いバレーボールで比率が低く
ジョギングで不適当が多かった



種目	質問 回答数	(1) 仮登録を行ったことについて		
		適当	どちらとも いえない	不適当
柔道	6	83.3	16.7	0.0
水泳ソウカ	75	80.0	13.3	4.0
陸上競技	34	79.4	14.7	5.9
テニス	89	77.5	16.9	5.6
ソフトテニス	13	76.9	15.4	7.7
サッカー	202	76.7	14.9	8.4
ゴルフ	63	76.2	12.7	11.1
ニュースポーツ	116	75.9	18.1	4.3
バドミントン	157	75.8	15.9	7.0
卓球	102	75.5	18.6	5.9
体力アップ	102	75.5	19.6	4.9
ラクロス	8	75.0	25.0	0.0
ソフトボール	280	72.1	20.4	6.1
エアロビクス	42	71.4	28.6	0.0
バスケットボール	273	69.6	16.8	12.8
剣道	52	69.2	25.0	3.8
ハンドボール	75	68.0	16.0	9.3
合気道	34	67.6	20.6	5.9
バレーボール	205	65.4	21.5	13.2
ジョギング	22	63.6	4.5	31.8
ダンス	56	62.5	26.8	10.7
野球	39	61.5	25.6	12.8
ホッケー	9	55.6	22.2	11.1
平均	89.3	72.3	18.4	8.3
SD	79.9	6.72	5.32	6.40
総和	2054	1485	377	171
+1SD		79.01	23.67	14.72
-1SD		65.58	13.04	1.93

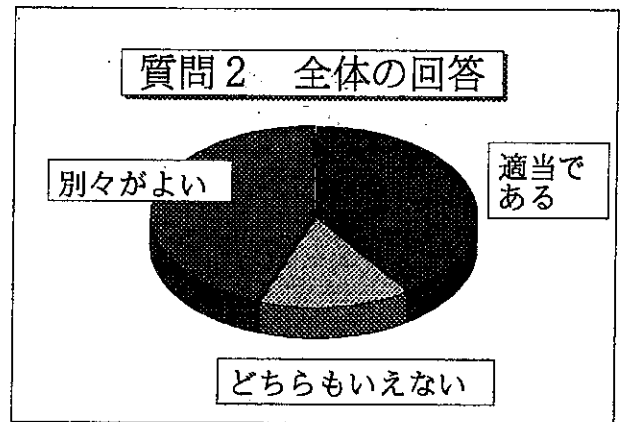
記述意見

仮登録を行ったことについてどのように思いますか。

148	並ばなくてよい 混乱回避によい
106	調整・人数制限は必要・賛成
70	平等・公正
59	取り捨て問題・過剰登録・定員割れが生じた
43	取りたいものが取れない・仮登録に落ちた・もっと当たるように
39	楽・面倒でない・無駄がない・分かりやすい・合理的・よい
20	登録ミスした・仮登録を忘れた・よく分からない・めんどう
16	他に方法がない・処理の都合上しかたない
13	予定たつ・時間割の調整つく・他の授業を見られる・他が決められる
問題点	時間割の調整がしにくい 4
苦情	人気種目に集中する 3
	通年で同じ種目を取れない 3
	追加登録の手続きが問題 2・追加のときの先着順問題 2
	手続きが煩雑 1・場所が混む 1
	教務部職務怠慢 1
	体育が半期だけ当たると他の教科が取れない 1
	末尾で決めるのはよくない 1
	一方的に抽選発表はつらい 1
	後で変更できるのはよくない 1
改善点	理工・必修学部の優先・救済 10
	般教と一緒にしてほしい・他の教科と同じでよい 7
	コマを増やせ（特に人気種目） 5
	仮登録の制限 2・第2希望も 1
	キャンセル待ちを考慮してほしい 2
	体育の履修申告をもっと早めに 1
	掲示板を増やす 1
	種目別に人数を考えるべき 1
	前後期申し込んだら連続OKか両方ダメに 1
	本登録までの期間を長くしてほしい 1
肯定意見	先着順は不公正・早い者勝ちは大変・けが人が出る 9
	確実に取れる・追加登録で取れる 8
	第一志望が優先される 4
	本当にやりたいものが取れる 2
	希望のものが取れる 2・取り落とすことが少なくなる 1
	取れるかどうかすぐ分かる 2
	二つ以上申し込めるのでよい 1
	応募状況が分かる 1・人気種目が分かる 1
	思い通りに取れた 1
	登録に落ちても安心 1
	ガイダンスをさぼっても登録できる 1
	人の片寄りが少なくなる 1
否定意見	先着順がよい・並べば确实 11
	全て本登録で済ませる 2・二度でまになる 1・メリットなし 2
その他	友達と一緒に取りたい 1 なんともいえない 1 秋学期の登録はつらい 1
	抽選で落ちた人のことを考えるとさぼれなくなる 1 体育を必修に 1

質問2 春秋同時登録について

全体平均で44%が別々がよいと回答した
 適当であるも40%を占め、均衡している



種目	質問 回答数	(2) 春秋同時の登録について		
		適当	どちらとも いえない	別々がよい
ラグビー	8	62.5	12.5	25.0
野球	39	61.5	10.3	25.6
ハンドボール	75	50.7	20.0	29.3
シヨキング	22	50.0	13.6	36.4
テニス	89	48.3	12.4	39.3
陸上競技	34	47.1	11.8	41.2
卓球	102	44.1	14.7	41.2
ニュースポーツ	116	42.2	12.9	44.8
バドミントン	157	40.8	12.7	46.5
バレーボール	205	40.5	12.2	47.3
剣道	52	40.4	13.5	46.2
ゴルフ	63	39.7	15.9	44.4
バスケットボール	273	39.6	13.9	46.5
ソフトテニス	13	38.5	7.7	53.8
サッカー	202	38.1	17.3	44.1
ソフトボール	280	37.9	14.6	44.3
ダンス	56	37.5	19.6	42.9
体力アップ	102	35.3	18.6	46.1
柔道	6	33.3	0.0	66.7
合気道	34	32.4	11.8	52.9
水泳シヨク	75	29.3	26.7	44.0
ホッケー	9	22.2	0.0	77.8
エアビクス	42	21.4	26.2	52.4
平均	89.3	40.1	15.1	44.3
SD	79.9	9.86	6.19	11.26
総和	2054	823	310	909
+1SD		49.93	21.28	55.51
-1SD		30.21	8.91	33.00

記述意見

春・秋学期の履修申込を同時に行ったことについてどのように思いますか。

- 278 別々 春を見てから決められる・情報が入る
150 別々 秋までに他にやりたいもの出てくる・春で気が変わる
140 同時 一度にすむ・らく・面倒でない・再度は面倒
66 同時 予定が立つ・年間計画が立つ
14 別々 一年生はまだ授業内容を理解できない・戸惑う
10 別々 希望を取れる機会が増える4・秋にチャンスを6
9 別々 選択の幅が広がる7・別々だとさまざまなスポーツを取れる・経験できる2
8 同時 秋の申込みを忘れそう・忘れにくい
5 同時 他の科目と同じだから2・他の科目と一緒によい3
4 同時 加計174・単位の都合上同時が適当3・シーズンスポーツもあるので同時がよい1

肯定（春秋同時）

- 春秋別だと混乱する2
秋の登録が大変1
春に単位を落としたものが埋め合わせでくるのでダメ1
同時だと秋学期の授業がすぐに始められる1
やる気のあるうちに登録した方がいい1
はずれたまま1年間はずらい1
7月入学なので1
先のことは決めにくい1
秋になって考えが変わるとは思わない1
春に単位を落とすと困る。1

否定（春秋別）

- 急いで選びたくない・秋まで4月に考えられない・入学したばかりで分からない37
秋学期の授業変更ができればよい4
秋は秋に当然3
けがなどにより状況が変わることもある2
秋になって取れないと困る1
スキー合宿などは予定のめどが立ってから決めたい1
体育がどの程度の負担になるか分からない1
留年がかかわる1
好きな季節に好きなものが出る1
同じ種目しか取れないと困る 1

その他

- 種目の内容が不明瞭3
同時だとは思わなかった 2
春秋両方ダメなこともある。 2
通年の授業があるといい1
体育を取りすぎてしまった 1
春と秋は取り組み方が違う1
上達に合わせた履修をしたい1
よいのが取れた1
単位の計算が楽になる1
抽選が公平1

記述意見 履修者の決定方法について意見を述べて下さい。

- 1 1 3 6 抽選賛成・抽選は公正・抽選は混乱しない
- 2 6 9 先着順賛成
- 2 7 必修・理工の人優先すべき
- 1 9 はずれにしないでほしい・全員履修できるようにしてほしい
- 1 4 先着順で並ぶと大変・授業をさぼる
- 7 取り捨て問題6・本登録しない者にペナルティ1
- 5 一長一短

先着順

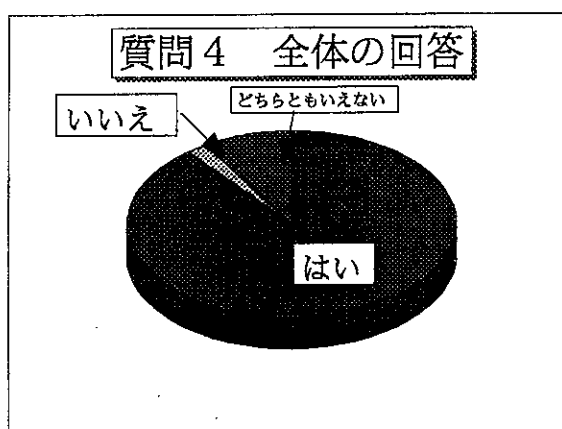
- (賛) 先着順はやる気のある人がとれる3
- (反対) 先着順は不公正 1
- 先着は並ぶのが大変2・先着はエスカレートする学生が出る1

-
- 改善点
・
問題点
 - 抽選方法を明確に示せ3
 - 第一希望者・本当に取りたいものを優先3
 - 目の前で抽選・自分で抽選したい3
 - 体力アップは通年で取るべき2
 - 追加登録も抽選2
 - 第2第3希望を1・希望順位をつけさせるといい2
 - 先着プラス抽選・半分先着順半分抽選2
 - 希望制限を少なくしろ2
 - 仮登録不備の無効を再検討して1
 - 普通の授業と同時に仮登録発表してほしい1
 - じゃんけん1
 - 学籍番号で決めるな1
 - 取り消し人数分がもったいない1・キャンセルによる補充を先着順1
 - マークシートの書き方を簡素化して1
 - 仮登録の手続きわかりにくい1
 - 締め切り日が他の科目と異なっていて紛らわしい1
 - 定員オーバーでも希望を聞いて1
 - 登録数を制限して1
 - 人気種目は抽選1
 - シーズポの倍率が高すぎる1
 - 空きの少ない学部から埋めてほしい1
 - 仮登録早く1
 - 3・4年生優先2・学年順がいい1
 - 合格者と不合格者に偏りがある1

-
- その他
 - 春秋同時履修したい3
 - 春秋連続でとれるように1
 - 抽選はしかたない1
 - どちらでもよい1
 - 男女比を考慮1・女子の数を明確に1
 - 一クラスの数多すぎる1
 - 大学で体育が選択ではもったいない1
 - 春秋を別の日1
 - 現状で混乱はなさそう1

質問4 授業は満足できるものであったか

全体平均で88%が満足できたと回答した
その比率が低い種目はどちらともいえない
という回答が多く、満足度が低いという
わけでもなかった



種目	質問 回答数	(4) 授業は満足できるものであったか		
		はい	いいえ	どちらとも いえない
柔道	6	100.0	0.0	0.0
エアロビクス	42	100.0	0.0	0.0
合気道	34	100.0	0.0	0.0
体力アップ	102	97.1	0.0	2.0
バレーボール	205	93.7	2.9	3.4
剣道	52	92.3	0.0	7.7
ゴルフ	63	92.1	0.0	6.3
水泳シブ	75	92.0	2.7	1.3
サッカー	202	91.6	1.5	5.4
バスケットボール	273	91.6	0.7	5.9
卓球	102	91.2	2.0	6.9
ニュースポーツ	116	89.7	0.0	9.5
テニス	89	87.6	0.0	12.4
ラクロス	8	87.5	0.0	12.5
バドミントン	157	83.4	3.2	10.8
ソフトボール	280	82.5	5.4	12.1
ホッケー	9	77.8	0.0	11.1
ジョギング	22	77.3	0.0	22.7
ハンドボール	75	76.0	0.0	17.3
ダンス	56	73.2	0.0	23.2
野球	39	69.2	5.1	25.6
ソフトテニス	13	69.2	15.4	15.4
陸上競技	34	67.6	2.9	26.5
平均	89.3	88.0	1.9	8.7
SD	79.9	10.03	3.34	8.08
総和	2054	1808	40	179
+1SD		98.05	5.29	16.79
-1SD		77.99	-1.39	0.64

質問5 体育実技に関する意見を述べて下さい。

- 3 3 5 楽しい・楽しかった・有意義・満足・面白かった・良かった
- 8 2 運動不足解消・体力向上になる・健康によい
- 6 7 単位を2に・単位少ない
- 6 6 雨天できない・どうにかしろ
- 4 4 身体を動かすのはいい・いい機会
- 4 3 人気種目増やせ4 1・人気種目の充実2
- 4 3 いろいろな種目ができてよい・種目が豊富
- 3 4 ゲーム中心に・ゲーム多くてよい
- 2 8 上級者・中級者・初心者を明確に・対象者レベルを考えて
- 2 2 内容が充実している

カリキュラム・単位・履修

- 理工はなぜ必修・理解できない1 5・理工はなぜ2単位なのか1
- 種目数・コマ数増やせ1 1 4・5限の開設 1 1
- 必修でよい1 0 通年で 1 0
- 上限単位を増やしてほしい3・単位の上限反対5 三田開講増望む6
- オールラウンドに・いろいろな種目をやりたい4
- 半期は短い3・時間が少ない1
- 成績の決定方法を教えてほしい1・成績の付け方わからない2
- ガイダンスがわかりにくい1・ガイダンスを具体的に1
- 体育会部員が出ないのはよくない2
- 全員履修できるように2 必修優先2
- 男女比を具体的に1
- 抽選に漏れて履修した種目だとやる気が少なくなる1
- 週2日 1 履修案内の充実1 履修定員増1
- 抽選はずれるとかわいそう1
- 理工は必修1でよい1 自動車を免許所持者にも開放しろ1
- 参加してから決めたい1 選択がよい1

施設・用具

- 下田遠い1 8
- グラウンド悪い・水はけ1 5
- ロッカーがほしい9
- 施設の充実7・設備が悪い 1
- バレーは屋内で 8
- シャワーがほしい・きれいに5
- ゴルフ場が遠い 3
- 暑い3
- クーラーつけて2
- 理工学部の体育が必修でなくても履修すると思う1
- テニス道具を貸してほしい1
- 剣道着を掛けるところがほしい1
- トレーニング施設の開放1
- 道具が悪い1
- 更衣場所充実 1
- 防具を貸してもらえてよかった1
- バスがほしい1
- 室内が暗い1

授業

大変だった・きつい 1 3
楽しければいい 9
ストレス解消 6・気分転換 2
早めに授業が終わるように・次の授業に遅れる 8
女子のみを増やす・女子のみよかった 4・男女混合は怖い 3
友達ができた 6 先生がいい 6
上手な人とできてよい 6 教員が専門でよい 5
体育館を使いたい 5 新しいことが経験できた 5
サッカーは全面でやる方がいい 4 少人数で・人数が多い 4
もっとガンガン・もっとハードに・本格的に 4
経験者コースを・レベル別がよい 3
教え方良い 3 やる気のない人がいる 3
技や動きの一つ一つを説明してもらって教えてもらえてよい 3
レポートをやめる 3 ビデオはつまらない 2
体力アップというネーミングは損だ 2
テストがないのでよい 2 講義と違い気楽でよい 2
休みを入れてほしい 2 ゴルフの経費大学負担で 1
休講はない方がいい 1 実技テストがなくてよい 1
ただで指導を受けられる 1 怪我のない指導がいい 1・安全に 1
試験前は休みにしてほしい 1 レベルが高くやりがいある 1
女子がいればもっとよい 1 遅刻を厳しく 1
練習をもっとやった方がいい 1 面白いが講義がつらい 1
もっと白熱したい 1 出席を遅く取ってほしい 1
満足できない 1 もっとよく教えてほしい 1
プレーの見本が見たい 1 今のままでよい 1
ビデオが見たい 1 戦術のディスカッションを 1
水泳は 2 時間連続で 1

雨天時

雨の日は休講がいい 3
雨天練習場がほしい 2
雨天記念館でテニスができるよかった 1
雨天中止の場合補講しろ 1

その他

朝がきつい 3
生活にメリハリができた 2
テニスコートの一般開放 1
種目の強制はよくない 1
頭を使わないのがよい 1
出席大変 1

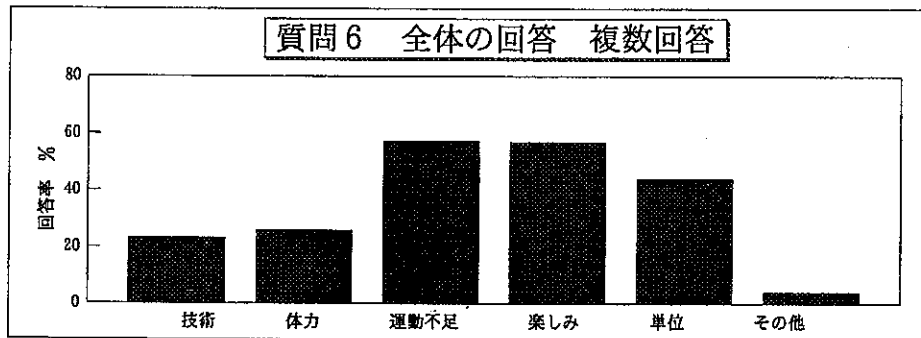
要望種目

各種格闘技 2・空手 1・ボウリング 1・少林寺 1・タッチフット 1・体操 1・軟式野球 1
馬術 1 セパタクロー 1・ホッケー 1・テニス 1・バスケ 1

質問5 体育実技を履修した主な理由

複数回答可であったが、全体平均では
運動不足解消・健康増進と楽しみとして愛好するが57%前後であった
また43%が単位修得のため、技術・体力は25%前後にとどまった

各種目で平均に対して1SD以上多い回答は
平均に対して1SD以上少ない回答は で囲って示した



種目	質問 回答数	(6) 授業を履修した主な理由					
		技術向上修得	体力向上	運動不足解消 健康維持	楽しみとして愛好	単位修得	その他
ソフトボール	280	9.6	16.4	61.1	75.4	44.3	1.8
バスケットボール	273	34.4	38.1	63.7	7.7	41.8	1.8
バレーボール	205	22.4	31.7	62.4	75.6	49.3	5.4
サッカー	202	26.2	29.7	61.4	81.2	40.1	2.0
バドミントン	157	15.3	15.3	54.8	61.8	52.9	3.8
ニュースポーツ	116	7.8	12.1	61.2	55.2	64.7	6.0
体力アップ	102	2.0	21.6	15.7	2.0	6.9	1.0
卓球	102	10.8	9.8	46.1	73.5	60.8	5.9
テニス	89	59.6	21.3	40.4	73.0	34.8	7.9
ハンドボール	75	8.0	22.7	57.3	48.0	41.3	4.0
水泳シクロ	75	33.3	46.7	65.3	61.3	30.7	4.0
ゴルフ	63	57.1	19.0	41.3	69.8	49.2	7.9
ダンス	56	19.6	33.9	73.2	53.6	51.8	7.1
剣道	52	48.1	38.5	63.5	59.6	50.0	9.6
エアロビクス	42	11.9	38.1	88.1	57.1	40.5	4.8
野球	39	33.3	23.1	51.3	82.1	41.0	0.0
合気道	34	38.2	23.5	55.9	58.8	29.4	2.9
陸上競技	34	20.6	38.2	52.9	41.2	26.5	0.0
ジョギング	22	13.6	40.9	68.2	27.3	72.7	13.6
ソフトテニス	13	23.1	7.7	61.5	84.6	46.2	7.7
ホッケー	9	11.1	11.1	33.3	66.7	33.3	11.1
ラクロス	8	25.0	12.5	50.0	87.5	75.0	0.0
柔道	6	66.7	50.0	83.3	50.0	16.7	33.3
平均	89.3	23.0	25.7	57.2	56.7	43.9	4.0
SD	79.9	17.54	12.25	15.21	21.96	15.87	6.80
総和	2054	473	528	1174	1164	902	82
+1SD		40.57	37.95	72.37	78.63	59.79	10.79
-1SD		5.48	13.46	41.95	34.71	28.04	-2.81

体育実技を履修した主な理由を次の中から選んで下さい。
その他（具体的に：）の回答理由

教職のため 20
必修だから 11
空き時間だから1・暇だから1
友人を作るため 5
ストレス解消 2
サークルでいかす1
将来できそうだから1
女の子と知り合いになりたい1
スポーツに対する意識を持続させるため 1
バレーが好きだから 1
バスケットが好きだから 2
サッカーが好きだから 2
武道に興味があったから 2
経験・習得のため 2
面白そうだから 1
自分が日頃行っているスポーツにプラスになると思ったから 1
できる種目はこれくらいしかないから 1
楽そうだから 1
昔やっていたから 1
ダイエットのため 1
新しい種目をやってみたいから 1
Aが取りやすい 1

平成7年度「スポーツクラス履修者アンケート」 **（秋学期実施）** 集計結果

アンケート用紙
アンケート回答基礎資料 学部・学年、履修コマ数
運動経験と運動実施状況及び質問項目
質問項目「履修の動機」「来年度履修計画」
5段階評価 質問a～g
5段階評価種目別一覧
5段階評価担当者別一覧
体育科目に関する要望
塾内開催希望イベント

スポーツクラス履修者アンケート

体育研究所

体育科目の改善と塾内のスポーツ振興に役立てるため、アンケートにご協力下さい。

回答はすべて □ 枠内に記号で記入して下さい。

①. 学部・学年・性別を記入して下さい。

学部 1.文学部 2.経済学部 3.法学部(政治) 4.法学部(法律) 5.商学部 6.医学部 7.理工学部

学年 1.1年 2.2年 3.3年 4.4年 性別 1.男 2.女

②. 体育関係科目の履修状況を記入して下さい。種目コードは最後の一覧表より記入して下さい。

今年度 ウィークリースポーツ

春学期	計	<input type="text"/>	種目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
秋学期	計	<input type="text"/>	種目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
シーズンスポーツ			種目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

体育理論 1.履修した 2.履修していない

保健衛生 1.履修した 2.履修していない

昨年、一昨年度 ウィークリースポーツ

春学期	計	<input type="text"/>	種目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
秋学期	計	<input type="text"/>	種目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
シーズンスポーツ			種目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

体育理論 1.履修した 2.履修していない

保健衛生 1.履修した 2.履修していない

③. 授業以外の運動経験と運動状況を記入して下さい。種目コードは最後の一覧表より記入して下さい。

<高等学校運動経験>	有無	1.あり-学内 2.あり-学外 3.なし	<input type="text"/>	種目コード	<input type="text"/>
ありの場合の具体的な形態		1.運動部 2.地域クラブ 3.遊び 4.その他	<input type="text"/>		<input type="text"/>
活動回数		1.週7 2.週6 3.週5 4.週4 5.週3 6.週2 7.週1 8.月2 9.月1	<input type="text"/>		<input type="text"/>

<大学入学後運動活動> 各学年全てについて答えて下さい。

活動の有無	1.あり-学内 2.あり-学外 3.なし	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
種目コード		<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
実施形態	1.サークル 2.地域クラブ 3.体育会 4.その他	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
活動回数	1.週7 2.週6 3.週5 4.週4 5.週3 6.週2 7.週1 8.月2 9.月1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

◆現在授業以外で運動を実施している方にお聞きします。

・運動（授業以外）をする動機は何ですか？以下から最も強いものを一つ選んで下さい。

- 1. 種目の成績・技術をさらに向上させたいから
- 2. 運動不足の解消
- 3. 健康・体力の増進を目指すから
- 4. 実施仲間の人間関係が楽しいから
- 5. その他 _____

・その実施種目を選んだ理由は何ですか？以下から最もあてはまるものを一つ選んで下さい。

- 1. 体育会でやるほどではないがその種目をさらにやりたい
- 2. 種目の経験はないが興味があったから
- 3. 友達と一緒にだったので
- 4. 楽しそうだったので
- その他 _____

◇現在、授業以外では運動をしていない方にお聞きします。それはなぜですか？またどういった条件がそろえば運動を実施しますか？具体的に記述して下さい。

4. 次の各質問に答えて下さい。

1) 体育実技を履修した理由・動機 (複数回答可) 2) 来年度も体育実技を履修しますか

- | | |
|---|-------------------------|
| a. 運動が好きだから | a. 履修する |
| b. 種目の技量・技術をアップしたい | b. 上限単位に達したので履修したいができない |
| c. 単位がほしいから | c. 単位に関係なく実践したい |
| d. 教職課程に必要だから | d. 履修しない |
| e. 体力の維持・健康増進をしたい | e. 未定 |
| f. 友達と一緒に楽しみたい <input type="checkbox"/> | |
| g. その他 <input type="checkbox"/> | |

3) 授業を通して、以下の各項目について5段階の評価をして下さい。該当の場所に○をして下さい。

- | | | | | | |
|------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 絶対に思う | 思う | どちらともいえない | そう思わない | 全く思わない |
| a. 授業における目的・目標がよく理解できた | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| b. 高校までの授業とは違っていた | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| c. 教員の教授法が適切であった | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| d. 教員の知識・技量が十分であった | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| e. 施設が充実していた | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| f. 用具が充実していた | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| g. 総じて授業が満足できるものであった | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

5. その他、体育科目に関する要望を次の項目毎に自由に書いて下さい

授業内容等	履修手続等	開設種目等	その他
-------	-------	-------	-----

6. 今後、塾内で開催を希望するスポーツイベント等があったら記入して下さい。

- 種目コード 01.合気道 02.アメリカンフットボール 03.空手 04.器械体操 05.弓術 06.陸上競技 07.剣道 08.航空
 09.ゴルフ 10.山岳 11.射撃 12.ラグビー 13.自動車 14.柔道 15.重量拳 16.水泳 17.スキー 18.スケート 19.相撲
 20.サッカー 21.卓球 22.テニス 23.ソフトテニス 24.硬式野球 25.軟式野球 26.ハンドボール 27.馬術 28.バスケットボール
 29.バドミントン 30.バレーボール 31.フェンシング 32.ホッケー 33.アイスホッケー 34.ボクシング 35.アーチェリー 36.ヨット 37.レスリング
 38.少林寺拳法 39.日本拳法 40.ソフトボール 41.ウイントサーフィン 42.スクワッド化ベンチ 43.オリエンテーリング 44.カー
 45.スカッシュ 46.ハンククライト 48.ホウリング 50.ラクロス 51.ラケットボール 52.太極拳 53.新体操 54.水球 55.自転車
 56.シンクロナイズトスイミング 57.ダンス 58.エアロビクス 59.端艇 60.ニュースポーツ 61.キャリセニックス 62.立科スポーツ
 63.軽スポーツ 64.体力アップコース 65.リズムエクササイズ 66.シヨキング 67.リハビリコース

①回答者の内訳 ()内は内数で女子の数

回収アンケート 総数1763名

文学部	209, 11.8% (114)	1年生	1219, 69.1% (292)
経済学部	349, 19.8% (42)	2年生	509, 28.9% (102)
法学部(政治)	179, 10.2% (55)	3年生	23, 1.3% (6)
// (法律)	255, 14.5% (72)	4年生	5, 0.2% (3)
商学部	320, 18.2% (59)	男子	1347
医学部	1, 0.06% (0)	女子	406 男女比 77%:23%
理工学部	444, 25.2% (66)		

②体育科目履修状況

今年度	春学期	ウィークリー	1220名	1373コマ
	秋学期	//	1743名*	2093コマ
	シーズン	スポーツ	239名	258コマ
(*回収1763名に対して無記入20あり)				
		体育理論	80名, 4.5%	
		保健衛生	57名, 3.2%	
昨年度・一昨年度	春学期	ウィークリー	276コマ	
	秋学期	//	283コマ	
	シーズン	スポーツ	99コマ	
		体育理論	17コマ	
		保健衛生	22コマ	

今年度秋学期履修コマ別、履修歴表(人)

	H7春0コマ	H7春1コマ	H7春2コマ	H7春3~	H5,6 1コマ	H5,6 2コマ	H5,6 3~
H7秋1コマ	405	992	50	6	72	11	2
H7秋2コマ	102	72	75	1	136	26	1
H7秋3コマ以上	23	11	4	2	28	18	3

※参考 平成7年度、体育実技I履修者実数(春秋)は3952人、のべコマ数は6748コマ。アンケート回答率は履修者の44.6%、履修のべコマ数も51.4%で約半分の比率を示した。従って、ほぼ秋学期履修者全体に近い学生からの意見と考えられる。

同じく学年比率も、1年:2年:3年:4年=69.6:28.1:2.1:0.3で、ほとんどのこの比率に準じていた。

体育理論、保健衛生の履修者について、昨年度(平成6年度)末の同様のアンケートでは、回答数1565名中、体育理論37名(2.3%)、保健衛生56名(3.6%)で本年度わずかに増加している。

③運動経験・運動状況

高等学校運動経験	学内有り	男子822名 (61.1%)	女子195名 (48.4%)
	学外有り	男子120名 (8.9%)	女子40名 (9.9%)
	経験なし	男子404名 (30.0%)	女子168名 (41.7%)
大学1年時運動実施	学内有り	男子817名 (60.7%)	女子226名 (56.1%)
	学外有り	男子106名 (7.9%)	女子16名 (4.0%)
	経験なし	男子426名 (31.6%)	女子161名 (40.0%)
大学2年時運動実施	学内有り	男子213名 (50.2%)	女子45名 (40.5%)
	学外有り	男子44名 (10.4%)	女子12名 (10.8%)
	経験なし	男子167名 (39.4%)	女子54名 (48.6%)

運動実施者への質問 ()内は内数で女子の数

◆運動をする動機

1. 種目の成績・技術をさらに向上させたいから 346 (47)
2. 運動不足の解消 449 (112)
3. 健康・体力の増進を目指すから 172 (30)
4. 実施仲間の人間関係が楽しいから 254 (60)
5. その他 75 (18)

<好きだから7、体を動かすのが好き4、趣味3、楽しい2、リフレッシュ、等>

◆実施種目選択の理由

1. 体育会でやるほどではないがその種目をさらにやりたい 493 (67)
2. 種目の経験はないが興味があったから 331 (80)
3. 友達と一緒にだったので 43 (4)
4. 楽しそうだったので 370 (98)
5. その他 30 (18)

<好きだから14、以前やっていた5、楽しいから2、年をとっても出来る、ライフワークとして、体力づくり、簡単に出来るから、プロの試合を見て 等>

運動を実施していない者への質問

◇運動をしない理由・運動実施への条件

- 時間がない176 自由に使える施設(場所)がない60
 機会がない29 時間・場所の問題19
 疲れる・体力がない16 お金がない12
 めんどうだから11 勉強との両立困難3
 友人がいればやる13 おもしろければ2
 人が集まらない2 よいサークルがあれば
 家が遠い プールがない 自分のやりたいときにやれば
 サークルに入ろうとは思わなかった など

4 全体質問項目 () 内は内数で女子の数

1) 体育実技を履修した理由・動機 (複数回答可)

H 6 年度調査

a. 運動が好きだから	975, 55.3% (194)	54.5% =
b. 種目の技量・技術をアップしたい	319, 18.1% (71)	8.7% ↑
c. 単位がほしいから	407, 23.1% (85)	12.9% ↑
d. 教職課程に必要なだから	123, 7.0% (51)	4.5% △
e. 体力の維持・健康増進をしたい	550, 31.2% (162)	16.7% ↑
f. 友達と一緒に楽しみたい	147, 8.3% (51)	10.3% ▽
g. その他	58, 3.3% (16)	4.2% =

<必修だから16 好きだから6 楽しいから3 等>

※前年度調査に比較して「種目の技量・技術の向上」「体力の維持・健康増進」の項目の回答が増えている。一方、「単位がほしいから」が10%以上減少した。

2) 来年度も体育実技を履修しますか

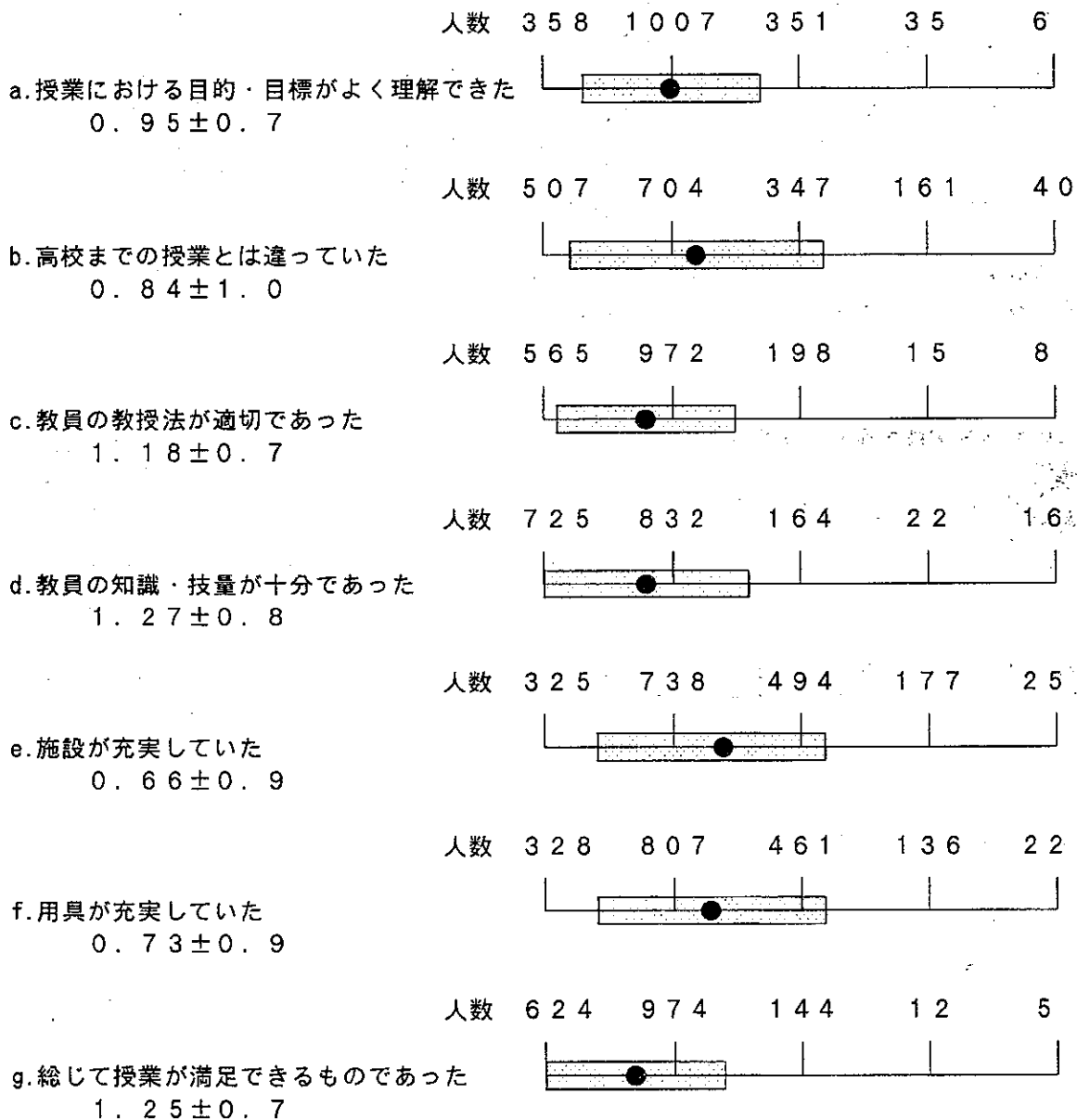
H 6 年度調査

a. 履修する	640, 36.3% (105)	31.9% △
b. 上限単位に達したので履修したいができない	63, 3.6% (13)	4.3% =
c. 単位に関係なく実践したい	123, 7.0% (28)	6.9% =
d. 履修しない	343, 19.5% (102)	23.3% ▽
e. 未定	576, 32.7% (155)	32.5% =

※前年度調査に比較すると「履修する」が6%余り増加し、「履修しない」が4%減少したが、その他は前年度に極めて類似した比率であった。

3) 授業を通して、以下の各項目について5段階の評価をして下さい。

得点化 2点 1点 0点 -1点 -2点
 平均±標準偏差 難に思う 思う どちらともいえない 思わない 全く思わない



※本年度より、授業評価として学生に5段階の評価をしてもらった。5段階を2点～-2点の得点として便宜的に数値化したところ、平均で1点を越える項目が、「教員の教授法」「教員の知識・技量」「授業の満足度」であった。

得点が低かったものは、「施設」「用具」であり、多少の物足りなさがあるようである。

総じて、肯定的意見が大半であったが、「高校までの授業とは違っていた」については意見がばらつき、「そう思わない」の回答も多かった。このあたりは、種目特性もあると思われるので、次項からの種目別での得点を参照されたい。

5段階評価種目別集計一覧 (順不同)

種目		目的目標	高校比較	教授法	知識技量	施設充実	用具充実	授業満足
		a	b	c	d	e	f	g
エアロビクス	AVG	1.10	1.02	1.48	1.48	1.29	1.18	1.37
	SD	0.67	0.98	0.53	0.53	0.75	0.77	0.60
ゴルフ	AVG	0.90	1.25	1.14	1.39	0.60	0.94	1.30
	SD	0.67	0.71	0.71	0.71	0.92	0.82	0.59
サッカー	AVG	0.99	0.72	1.18	1.40	0.35	0.38	1.32
	SD	0.70	1.05	0.75	0.70	1.01	0.96	0.67
ジョギング	AVG	0.91	1.03	1.11	1.37	0.31	0.23	0.91
	SD	0.65	0.77	0.71	0.59	0.78	0.72	0.60
ソフトテニス	AVG	1.36	0.09	1.55	1.82	0.73	0.55	1.36
	SD	0.64	1.00	0.50	0.39	0.75	0.50	0.48
ソフトボール	AVG	0.68	0.80	0.91	0.93	0.52	0.72	1.25
	SD	0.78	1.03	0.77	0.81	0.90	0.85	0.68
ダンス(含三田)	AVG	1.10	0.80	1.16	1.37	1.02	0.86	1.18
	SD	0.67	0.97	0.54	0.48	0.80	0.87	0.65
テニス	AVG	0.96	0.83	1.32	1.41	0.91	0.89	1.26
	SD	0.68	0.91	0.64	0.78	0.83	0.81	0.69
ニュースポーツ	AVG	0.89	1.14	1.28	1.27	0.53	0.86	1.18
	SD	0.67	1.01	0.56	0.71	0.96	0.90	0.62
ハンドボール	AVG	1.18	1.03	1.31	1.67	1.00	1.03	1.46
	SD	0.38	0.83	0.61	0.47	0.88	0.83	0.59
バスケットボール	AVG	1.06	0.63	1.24	1.32	0.90	0.89	1.39
	SD	0.67	1.03	0.61	0.64	0.82	0.81	0.61
バドミントン	AVG	0.84	0.73	0.94	1.20	0.61	0.75	1.07
	SD	0.67	1.05	0.76	0.84	0.86	0.86	0.66
バレーボール	AVG	0.87	0.50	1.03	0.89	0.21	0.28	1.18
	SD	0.77	1.10	0.69	0.81	0.96	0.91	0.70
ラクロス	AVG	1.38	0.56	1.33	1.78	0.56	1.11	1.33
	SD	0.48	1.50	0.67	0.42	1.07	0.57	0.67
剣道	AVG	1.08	0.88	1.73	1.73	1.19	1.27	1.50
	SD	0.55	0.93	0.44	0.44	0.56	0.59	0.50
柔道	AVG	1.20	0.80	1.40	1.53	1.00	0.50	1.13
	SD	0.65	0.83	0.61	0.81	0.82	0.63	0.50
水泳	AVG	1.18	1.32	1.55	1.82	1.09	0.95	1.41
	SD	0.89	0.82	0.50	0.39	0.85	0.93	0.58
体力アップ	AVG	1.18	1.38	1.47	1.50	1.08	1.08	1.31
	SD	0.71	0.78	0.54	0.65	0.91	0.88	0.66
卓球	AVG	1.08	0.82	1.14	1.21	0.69	0.71	1.15
	SD	0.67	0.92	0.63	0.74	0.88	0.83	0.62
野球	AVG	0.65	1.10	1.06	1.12	0.65	0.82	1.00
	SD	0.72	0.89	0.74	0.75	0.89	0.87	0.61
陸上競技	AVG	1.21	0.93	1.48	1.59	0.69	0.66	1.48
	SD	0.61	1.01	0.50	0.49	0.59	0.66	0.50

5段階評価担当者別集計一覧 (順不同)

担当者	種目		目的目標 高校比較 教授法 知識技量 施設 用具 授業満足						
			a	b	c	d	e	f	g
松田	全体集計	AVG	0.90	0.94	1.21	1.31	0.65	0.67	1.08
		N=78 SD	0.74	0.94	0.61	0.61	0.77	0.76	0.69
	卓球	AVG	1.18	1.27	1.00	1.09	1.09	1.09	1.00
		N=11 SD	0.57	0.75	0.60	0.51	0.67	0.67	0.85
	ジョギング	AVG	0.82	1.12	1.12	1.41	0.41	0.29	1.06
		N=17 SD	0.71	0.58	0.76	0.60	0.49	0.46	0.73
	陸上	AVG	1.19	0.88	1.44	1.63	0.81	0.69	1.31
		N=16 SD	0.63	0.78	0.50	0.48	0.63	0.77	0.46
	ニュースポーツ	AVG	0.74	0.57	1.13	1.09	0.43	0.61	0.91
		N=23 SD	0.67	1.17	0.54	0.65	0.77	0.71	0.65
体力UP	AVG	0.64	1.18	1.36	1.36	0.82	0.91	1.18	
	N=11 SD	0.98	0.94	0.48	0.48	1.03	1.00	0.72	
安藤	柔道	AVG	1.20	0.80	1.40	1.53	1.00	0.50	1.13
		N=15 SD	0.65	0.83	0.61	0.81	0.82	0.63	0.50
加藤	バドミントン	AVG	0.91	0.88	1.09	1.38	0.68	0.74	1.12
		N=34 SD	0.61	0.93	0.45	0.59	0.83	0.88	0.58
吉田	全体	AVG	0.90	0.76	1.18	1.13	0.77	0.95	1.29
		N=62 SD	0.73	1.07	0.61	0.71	0.83	0.77	0.58
	剣道	AVG	1.09	0.55	1.64	1.64	1.18	1.45	1.45
		N=11 SD	0.29	0.99	0.48	0.48	0.57	0.66	0.50
	体力up	AVG	0.82	1.64	1.18	0.91	1.09	1.18	1.00
		N=11 SD	0.83	0.48	0.57	1.00	0.67	0.57	0.60
ソフトボール	AVG	0.88	0.58	1.05	1.05	0.58	0.75	1.33	
	N=40 SD	0.78	1.09	0.59	0.59	0.86	0.77	0.57	
魚住	バスケットボール	AVG	1.20	0.50	1.43	1.53	0.93	0.93	1.60
		N=40 SD	0.56	1.16	0.49	0.50	0.88	0.79	0.54
橋本	ゴルフ	AVG	0.61	1.41	0.98	1.36	0.89	0.91	1.32
		N=44 SD	0.68	0.68	0.62	0.64	0.78	0.73	0.59
近藤	全体	AVG	1.09	0.99	1.24	1.39	0.40	0.39	1.30
		N=67 SD	0.62	0.95	0.67	0.62	0.95	0.98	0.60
	サッカー	AVG	1.05	1.14	1.10	1.29	0.24	0.20	1.38
		N=21 SD	0.72	0.83	0.75	0.70	1.15	1.33	0.58
	ジョギング	AVG	1.00	0.94	1.11	1.33	0.22	0.17	0.78
		N=18 SD	0.58	0.91	0.66	0.58	0.97	0.90	0.42
	テニス	AVG	1.13	0.80	1.33	1.47	0.73	0.73	1.47
		N=15 SD	0.50	0.83	0.60	0.62	0.77	0.68	0.50
	陸上競技	AVG	1.23	1.00	1.54	1.54	0.54	0.62	1.69
		N=13 SD	0.58	1.24	0.50	0.50	0.50	0.49	0.46

担当者	種目		目的目標	高校比較	教授法	知識技量	施設	用具	授業満足
			a	b	c	d	e	f	g
高嶺	全体	AVG	1.15	1.19	1.40	1.60	0.77	0.70	1.17
		SD	0.74	0.96	0.49	0.49	0.95	0.92	0.63
	水泳	AVG	1.18	1.32	1.55	1.82	1.09	0.95	1.41
		SD	0.89	0.82	0.50	0.39	0.85	0.93	0.58
	体力アップ	AVG	1.12	1.08	1.28	1.40	0.48	0.48	0.96
		SD	0.59	1.06	0.45	0.49	0.94	0.85	0.60
今栄	体力UP N=40	AVG	1.38	1.50	1.65	1.65	1.43	1.35	1.60
		SD	0.58	0.55	0.53	0.61	0.77	0.82	0.58
佐々木	全体	AVG	1.09	0.96	1.45	1.45	1.17	1.09	1.30
		SD	0.65	0.97	0.53	0.53	0.87	0.85	0.64
	エアロビクス	AVG	1.10	1.02	1.48	1.48	1.29	1.18	1.37
		SD	0.67	0.98	0.53	0.53	0.75	0.77	0.60
	ダンス(三)	AVG	1.00	0.43	1.14	1.14	0.14	0.17	0.71
		SD	0.53	0.73	0.35	0.35	1.12	1.07	0.70
斎藤	バドミントン N=101	AVG	0.81	0.67	0.89	1.14	0.59	0.75	1.05
		SD	0.69	1.08	0.83	0.90	0.87	0.85	0.68
山内	全体	AVG	1.22	1.31	1.46	1.63	0.97	1.07	1.48
		SD	0.48	0.81	0.52	0.52	0.89	0.86	0.55
	体力アップ	AVG	1.40	1.53	1.60	1.80	1.33	1.40	1.47
		SD	0.49	0.62	0.49	0.40	0.70	0.61	0.50
	ニュースポーツ	AVG	1.14	1.30	1.44	1.58	0.72	0.98	1.37
		SD	0.46	0.95	0.50	0.49	0.92	0.90	0.53
	ハンドボール	AVG	1.16	1.19	1.41	1.72	1.03	1.06	1.47
		SD	0.36	0.77	0.49	0.45	0.95	0.90	0.61
	バスケットボール	AVG	1.41	1.35	1.47	1.41	1.18	1.00	1.76
		SD	0.60	0.59	0.61	0.69	0.62	0.77	0.42
篠原	全体	AVG	1.06	0.77	1.19	1.40	1.08	0.91	1.26
		SD	0.66	1.04	0.56	0.49	0.67	0.78	0.62
	ダンス	AVG	1.12	0.86	1.16	1.41	1.16	0.95	1.25
		SD	0.69	0.99	0.57	0.49	0.64	0.80	0.61
	バスケット	AVG	0.78	0.33	1.33	1.33	0.67	0.67	1.33
		SD	0.42	1.15	0.47	0.47	0.67	0.67	0.67
勝又	全体	AVG	0.81	0.87	1.18	1.34	0.48	0.67	1.33
		SD	0.58	0.96	0.63	0.63	0.93	0.95	0.54
	野球	AVG	0.80	1.07	1.33	1.40	0.60	0.80	1.07
		SD	0.54	0.68	0.60	0.49	0.88	0.83	0.44
	ソフトボール	AVG	0.81	0.83	1.14	1.33	0.45	0.64	1.39
		SD	0.58	1.01	0.63	0.66	0.93	0.97	0.55
松本	卓球 N=46	AVG	1.13	0.72	1.28	1.52	0.52	0.57	1.22
		SD	0.65	0.97	0.54	0.54	0.93	0.85	0.51

担当者	種目		目的目標	高校比較	教授法	知識技量	施設	用具	授業満足
			a	b	c	d	e	f	g
上向	サッカー	AVG	0.93	0.72	1.27	1.48	0.37	0.37	1.34
		SD	0.65	1.05	0.68	0.56	0.99	0.94	0.59
植田	全体	AVG	0.87	0.90	1.08	0.83	0.75	0.85	1.20
		SD	0.74	0.94	0.84	0.90	0.77	0.68	0.70
	剣道	AVG	0.92	1.23	1.77	1.77	1.08	1.00	1.46
		SD	0.62	0.80	0.42	0.42	0.47	0.39	0.50
	卓球	AVG	0.90	0.81	0.90	0.57	0.86	0.81	1.10
		SD	0.75	0.79	0.75	0.79	0.77	0.79	0.68
	ソフトボール	AVG	0.81	0.81	0.88	0.58	0.50	0.81	1.15
		SD	0.79	1.07	0.89	0.84	0.80	0.68	0.77
須田	サッカー	AVG	0.92	0.38	1.14	1.38	0.51	0.57	1.32
		SD	0.67	1.02	0.66	0.54	0.98	0.79	0.57
清水誠治	剣道三田		2	1	2	2	2	2	2
		n = 2	2	0	2	2	2	2	2
清水直臣	ゴルフ	AVG	1.10	1.15	1.26	1.40	0.40	0.97	1.29
		SD	0.59	0.71	0.74	0.75	0.96	0.88	0.58
石手靖	バレーボール	AVG	0.82	0.48	1.08	1.20	0.39	0.50	1.18
		SD	0.86	1.09	0.60	0.65	0.99	0.91	0.71
早川	ラクロス	AVG	1.38	0.56	1.33	1.78	0.56	1.11	1.33
		SD	0.48	1.50	0.67	0.42	1.07	0.57	0.67
村山	バレー	AVG	0.99	0.65	1.14	1.01	0.05	0.06	1.20
		SD	0.70	1.07	0.68	0.77	0.91	0.90	0.71
田中	テニス	AVG	1.02	0.90	1.51	1.61	1.06	0.96	1.35
		SD	0.77	0.97	0.58	0.72	0.77	0.81	0.74
湯田	サッカー	AVG	1.11	0.82	1.11	1.34	0.23	0.32	1.25
		SD	0.78	1.09	0.88	0.95	0.97	0.90	0.86
内藤	ソフトテニス	AVG	1.36	0.09	1.55	1.82	0.73	0.55	1.36
		SD	0.64	1.00	0.50	0.39	0.75	0.50	0.48
日馬	バスケットボール	AVG	0.86	0.28	0.92	1.06	0.86	0.86	1.06
		SD	0.63	0.94	0.64	0.66	0.81	0.83	0.56
堀場	テニス	AVG	0.86	0.78	1.12	1.18	0.82	0.88	1.10
		SD	0.61	0.86	0.66	0.82	0.87	0.85	0.65

担当者	種目		目的目標	高校比較	教授法	知識技量	施設	用具	授業満足
			a	b	c	d	e	f	g
綿田	全体	AVG	0.43	1.01	0.70	0.72	0.60	0.77	1.03
		SD	0.84	0.97	0.83	0.87	0.92	0.85	0.75
	ソフトボール	AVG	0.33	0.94	0.56	0.54	0.56	0.74	1.07
		SD	0.86	0.97	0.83	0.85	0.94	0.82	0.79
	野球	AVG	0.59	1.12	0.94	1.00	0.68	0.82	0.97
		SD	0.77	0.96	0.76	0.80	0.90	0.89	0.66
木塚	バスケットボール	AVG	1.11	0.87	1.36	1.41	0.87	0.89	1.47
		SD	0.73	0.92	0.54	0.62	0.84	0.82	0.58
野口	全体	AVG	0.78	0.61	0.91	0.56	0.26	0.46	1.16
		SD	0.75	1.10	0.75	0.84	0.98	0.92	0.66
	バレーボール	AVG	0.80	0.37	0.84	0.37	0.19	0.28	1.16
		SD	0.73	1.12	0.77	0.78	0.96	0.87	0.67
	ニュースポーツ	AVG	0.58	1.42	1.13	0.88	0.29	0.88	1.08
		SD	0.81	0.64	0.60	0.83	1.10	1.01	0.64
	ハンドボール	AVG	1.29	0.29	0.86	1.43	0.86	0.86	1.43
		SD	0.45	0.70	0.83	0.49	0.35	0.35	0.49

体育科目に対する要望・意見

授業内容

自由な雰囲気が良い、満足である40 楽しければよい12 ゲーム中心10
 レベル別があると良い5 技術面の指導も 人数を少なく バレーは屋内で 少し早めに終わる
 4限・5限(三田)にもコマを4 1限はなくしてほしい 通年種目がほしい4
 三田に力を入れてほしい
 週2回実施 シラバスをわかりやすく、2単位・単位を増やしてほしい
 4単位以上とれるように 男女別クラス増やして4

手続など

抽選は良くない63 仮登録は良くない24 もっと簡単に29 先着順13
 抽選でよい16 仮登録良い19 現状でよい7 理工優先7
 春秋別に15 秋に追加を4 人気種目増設(コマ人数)23 希望通り履修させてほしい8
 学部・単位数・制限をなくす11 三田での手続可能に

※前年度調査ではシステムに対する不満がのべ400件以上あったが、仮登録の実施で、半数以下になっている。しかしながら、その大半は「抽選反対」という意見であり、実質的なシステムへの不満(めんどう、わかりづらい)は大幅に減少したと言える。

開設科目

豊富だと思ふ29 十分である2

人気種目の増設13 増やしてほしい6 三田増設22 変わった種目を2 初心者用を
週変わりて出来るもの

スノーボード3 バスケ3 ボーリング3 ミニサッカー2 セパタクロ-2 ソフトテニス2
インラインスケ-ト2 自転車2 サッカー2 初中級テニス2
ドライアスロン 古武道等 テニス上級 水上スキー 駅伝 タッチフットボール アメフト
女子のみソフトボール ビリヤード ボブスレー フライフィッシング ハンドボール
スケ-タ-化-ンク- 弓道 アウトドア ヨット女子 カーリング カバディ ラクロス 居合道
ロッククライミング 飛び込み 水球 ジャズダンス

※開講種目の希望としては、まとまった意見がなく、全体から見ると少数の回答であり、あまり参考とならないが、「三田増設」の意見は三田履修者の比率から言うと高いと言える。

その他

下田が遠い14 下田に更衣室・シャワーがほしい ロッカーがほしい6 更衣室ベンチを増やす
用具をよくして2 道具を持っていくのがめんどう2 ナイター設備 矢上のコートで
陸上フィールドがでこぼこ2 三田ダンスで鏡がほしい 休講をわかりやすく・早く
取り捨て問題 授業数を増やす 土曜日の種目を増やす SFC方式
シーズポの人数を増やしてほしい 馬術の授業料が高い 無料にしてほしい
授業内容を事前に知りたい 友達とペアで履修できるシートがほしい

★体育科目に対する要望としては、全般に少数意見中心であったが、今年度は施設面のクレームが比較的多かったように思われる。

塾内で開催を希望するイベントなど

学部クラス対抗5

何でもいいから多く3

低価格乗馬講習会 新入生歓迎球技大会 塾長杯駅伝 サ-ク対抗
スポーツ選手講演会 珍しいスポーツ大会 運動会7

サッカー49 女子サッカー1 フットサル7 PK大会1

バスケ30 3on3 13

バレーボール13 ビーチバレー2

ソフト311 テニス9 スノーボード7

マラソン5 水泳大会4 プール開放 卓球4

スケ-タ-化-ンク-3 スキーツアー3 バドミントン3

フィッシング2 トライアスロン2 剣道2 弓道2 野球2 アメフト2 ダンス大会2

ボ-リング-2

武道大会 プロレス・格闘技 柔道 空手

ゴルフ 自転車ロード セパタクロ- レガッタ

カーレース ハンドボール ディスクゴルフ アルティメット

ユニホック エアライフル 競歩 富士登山 ラグビー 70比-ク

第 2 部 研究分野

1. 平成 7 年度所内研究業績一覧

著書・論文報告書等・学会発表
慶応義塾学事振興資金援助研究

2. 所内定例研究会発表要旨

1. 平成7年度所内研究業績一覧

※アンダーラインは専任教員を表す。

1) 著書

著者	書名	出版社	年月
大学スケート研究会 (編)、野口和行分担執筆	アイススケーティングの基礎	アイオーエム	1995.12
日本キャンプ協会調査研究委員会(編)、野口和行分担執筆	キャンプ・インストラクターズ・ブックガイド	日本キャンプ協会	1996.1
吉田泰将他	教育剣道を培った人々	いなほ書房	1996.3

2) 論文、報告集等

著者	タイトル	誌名	巻号	年月
松本光弘、 <u>上向貢志</u> 、徐金山、李双喜	第15回ワールドカップ・サッカーにおける得点の分析	筑波大学運動学研究	11巻	1995.4
<u>上向貢志</u> 、萩原武久、木山隆之	サッカー選手に対する最大加速局面へのアシスティッド・トレーニングの効果	筑波大学運動学研究	11巻	1995.4
近藤明彦、深見和夫、水落文夫、鈴木典、石井政弘、高橋正則、河原正昭、佐藤雅幸、森田有子、堀内昌一	Effect of the Verbal Guidance in the Training Process of Service-return	テニスの科学、日本テニス学会	第3巻	1995.5
<u>上向貢志</u>	Jリーグ観戦者における観戦動機に関する研究	身体運動文化研究	2巻1号	1995.6
沢井史穂、 <u>村山光義</u>	日常動作を用いての中高年者の上・下肢に関する筋力の評価	平成6年度(財)日本体育協会 中高年者の筋機能向上に関する研究プロジェクト報告集		1995.7
近藤明彦、Dieter Teipel	Einstellung zu Fouls bei deutschen und japanischen Rugbyspielern	Emotionen im Sport Zwischen Koerperkult und Gewalt	bps27	1995
佐々木玲子	幼児の動作における速度調整の発達	体育の科学	45巻11号	1995.11
安藤勝英	トレマックスシステムを用いた静的最大筋力特性—膝部伸展屈曲—	慶應義塾大学体育研究所紀要	35巻1号	1995.12
佐々木玲子	幼児の反復的動作における上下肢の協応	体力科学	44巻6号	1995.12
佐々木玲子、 <u>村山光義</u> 、近藤明彦	学生・教職員を対象とした体力診断・運動処方システム開発の試み(その1)	慶應義塾大学体育研究所紀要	35巻1号	1995.12
<u>山内 賢</u>	トレマックスシステムを用いた静的最大筋力の出力特性—レッグエクステンション、レッグカールにおける筋出力の動態評価—	慶應義塾大学体育研究所紀要	35巻1号	1995.12

著者	タイトル	誌名	巻号	年月
上向貴志	負傷したスポーツ選手の情緒反応パターン—事例による検討—	慶應義塾大学体育研究所紀要	35巻1号	1995. 12
上向貴志、松本光弘、山中邦夫、竹之内隆志、奥田援史、松尾大介、生駒武史、橋川和晃	Jリーグ観戦者におけるサッカーの知識と観戦動機に関する研究	サッカー医・科学研究	15巻	1995. 12
村山光義、田中伸明	慶應義塾大学学生の運動経験・実施の実態調査—必修体育時の入学生の資料から—	慶應義塾大学体育研究所紀要	35巻1号	1995. 12
大槻 毅、上向貴志、萩原武久、吉田卓史	サッカーにおけるディフェンス動作に関するトレーニング効果の検討	サッカー医・科学研究	15巻	1995. 12
田中伸明	自己制御の観点からみたスポーツ選手の荷重点と姿勢の特徴について	慶應義塾大学体育研究所紀要	35巻1号	1995. 12
野口和行、村山光義	野外活動における指導者のあり方について	慶應義塾大学体育研究所紀要	35巻1号	1995. 12
上向貴志、竹之内隆志、奥田援史、桂和仁	Jリーグ観戦者における同一視の形成に影響を及ぼす要因	総合保健体育科学	19巻1号	1996. 3
野口和行	野外教育活動事例集「ネイチャーネット」	日本教育科学研究所		1996. 3
野口和行	野外教育活動事例集「森の絵本作り」	日本教育科学研究所		1996. 3

3) 学会発表

発表者	タイトル	発表学会名	年月
阿部希美、鈴木敏朗、森下はるみ、佐々木玲子	Development of Gait Phylogeny of Human Quadrupedal Walking	XVth Congress of the International Society of Biomechanics	1995. 7
佐々木玲子	幼児の反復的動作における上下肢の協応	第50回日本体力医学会	1995. 9
勝又宏、綿田博人、石手靖、村山光義、川合武司	異なる速度の投球に対する打撃動作局面の経時的変化について	日本体育学会第46回大会	1995. 10
上向貴志、竹之内隆志	スポーツファンはいかにして特定チームへの同一視を形成するのか	第2回身体運動文化研究会	1995. 11
近藤明彦、高橋正則、深見和男、川原政昭、水落文夫、鈴木典、石井正弘、森田有子、佐藤雅幸	テニス指導のためのイメージの伝達に関する基礎的研究 —その1：時間的分析の観点から—	第7回日本テニス学会	1995. 12
近藤明彦、石井正弘、高橋正則、深見和男、川原政昭、水落文夫、鈴木典、森田有子、佐藤雅幸	テニス指導のためのイメージの伝達に関する基礎的研究 —その2：空間的分析の結果から—	第7回日本テニス学会	1995. 12

発表者	タイトル	発表学会名	年月
田中伸明、近藤明彦、水野忠和	大学テニスプレーヤーの集中力と競技力との関係	第7回日本テニス学会	1995.12
安藤勝英	トレマックスシステムを用いた静的最大筋力特性－膝部伸展屈曲－	日本スポーツ方法学会	1996.3
山内 賢、千葉義信、浮田咲子、浮田 剛	バスケットボールにおけるシュートのメカニズム－閉眼でフリースローを行った場合の動作学的な一考察－	日本スポーツ方法学会 第7回大会	1996.3
村山光義、佐々木玲子、近藤明彦	学生のHealth-Related Fitness Levelの実態調査	第23回日本体育学会東京支部会	1996.3

4) 平成7年度慶應義塾学事振興資金援助研究

研究者名	研究名	個人・共同の別	金額
近藤明彦、佐々木玲子、村山光義	塾生及び教職員を対象とした体力診断・運動処方システムの開発	共同研究	77万円
斎藤健司	フランスにおける体育及びスポーツの発展に関する1975年の法律の成立過程の研究	各個研究	B
佐々木玲子	大学生の身体意識、活動量と体力水準について	各個研究	B

2. 所内定例研究会発表要旨

体育研究所では、月に1回下記の目的で研究会を行っている。

- 1) 所内の研究の活性化
- 2) 各所員の研究分野の理解

定例研究会の他、不定期で学会発表の予演会も行っている。以下に、定例で行われている研究会の発表内容について報告する。

1) 4月21日(金) 15:00~

(1) 齊藤健司「スポーツ団体法について」

フランスにおけるスポーツ団体に関する法規定の歴史を解説し、将来的なスポーツ団体法のあり方について考察をする。

(2) 近藤明彦「調整期の長距離走者の冬虫夏草服用の効果について」

疲労回復・パフォーマンスの向上に効果があるとして近年注目を浴びている漢方薬の一つである植物寄生昆虫幼生体「冬虫夏草」を、サプリメントとして捕らえ、その服用効果について検討を加えた。

冬虫夏草の服用は、末梢血検査の結果から、HGB値の向上に関連することが確認され、全身持久的能力を制限する因子の一つである酸素運搬能力の向上に対して影響を及ぼすことが分かった。

同時に行った心理テスト「POMS」の結果からは他の心理的要因等の影響もあり疲労回復過程に関連した明確な結果は得られなかった。

2) 5月26日(金) 15:00~

(1) 田中伸明「テニスにおける集中力」

Nidefferは、この集中力を注意の問題とし、注意の方向性(内-外)と注意の幅(広-狭)の2次元からとらえている。そして、この注意の様式を測定するテストとして、144の質問からなるTAIS(Test of Attentional and interpersonal Style)を開発した。このTAISをもとにして作成されたテニス用TAIS(T-TAIS)を使用し、テニス選手の競技力による集中力の違いについて比較検討をこれから進めるにあたり、いろいろとアドバイスを頂いた。

(2) 上向貫志「Jリーグ観戦者における同一視の形成過程及び観戦動機に関する研究」

これまでのスポーツスペクテーターに関する研究では、ファンの観戦に影響を及ぼす要因として、チームの成績、さらに特定チームに対する同一視といった変数が提唱されてきている。本研究では、ファンがいかにして特定チームに対する同一視を高めていくのかという点についての実証的研究が非常に少ないという立場から、Jリーグ観戦者(n=609)を対象として、特定チームへの同一視の形成過程を明らかにすることを目的とした。主な結果としては以下の通りである。

1. 実際の観戦行動を予測しうる要因は特定チームへの同一視の程度であった。

2. 特定チームへの同一視の程度に影響を与える要因は、地元であること、サポート集団へ関与していること、ファンになってからの期間といった変数であることが明らかとなった。
3. 特定のチームへの同一視の程度にチームの戦績は影響を与えなかったが、地元の場合にのみ、チームの戦績も影響を与えうることが明らかとなった。
4. サポート集団への関与に影響を与えうる要因として、社会的同一視が考えられたが、この仮説は否定された。

3) 6月30日(金) 15:00~

(1) 加藤大仁「選択理論と倫理問題」

一般社会における規範とされるものを、方法論的個人主義に基づいた選択理論で分析する上での予備的考察を行った。

(2) 山内賢「ランチェスターの法則をハンドボール競技のある種の戦術に適用するとどうなるのか？」

戦術モデルは、一般における混合戦術モデルのように確率論にその基礎を置くものと決定論的因果律に基礎を置くものとの2つに大別される。今回は後者に基づくところのF.W. Lanchesterによる戦術モデルをとりあげる。

このような素朴なモデルを用いて議論され得るような状況が、高度に機械化された現代の複雑な戦闘場面にそのままの形であらわれとは考えられないが、発表者は、このモデルの理論が、ハンドボール競技におけるある種のディフェンスシステムに今でも特徴的にあらわれていると考える。

今回の発表では、ランチェスターの1次法則と2次法則を説明し、戦略ゲームの合理性をハンドボール競技の一戦略に適用するとどうなるのかを具体的に説いた。同じ人数の集団同士が戦うときに、1対1よりも1対多で戦う集中攻撃の方が有利である。本人は、その具体例を騎馬戦の例を基にして、常微分方程式の初期値問題としてとらえ、数理科学的に証明し、さらにはハンドボール競技におけるコーナースロー時のディフェンスフォーメーションに応用して画期的な戦略を考案して紹介した。

4) 7月21日(金) 15:00~

(1) 石手靖「スクーバダイビングの特性を体育実技にどう生かすか」

生涯教育として「体育を考える必要がある今日、大学における体育実技の展開は、より学生のニーズを反映し、かつ教育的価値のある実技種目の開発が必要であると考えられる。そこで、スポーツ種目の一つであるスクーバダイビングの特性を紹介し、その要素の背景にある教育的価値を検討した。

スクーバダイビングのスクーバとは self contained under water breathing apparatus の意で高圧のタンクを伴って潜水するスポーツである。その特性としては、全身運動であること、正しい泳法と泳力の修得や適切な準備運動の実施環境とコンディションの確認が課せられること等が挙げられる。安全潜水のための

技術と知識の習得と共に地球環境を意識した行動は極めて教育価値の高いものと考えられる。また、卒業後の運動活動への期待も大きい。今後は実際に体育実技として実施している十数大学の状況、特に安全管理運営面の調査検討が必要である。

(2) 植田史生「東京都高体連の部活動の状況について」

現在、東京都高体連部活動では、小子社会を反映して高校生人口が激減し、一部の専門部を除いては部員数の減少傾向が続いている。また、高体連種目でない、ニュースポーツの台頭や伝統的競技スポーツへの消極姿勢も部員数の減少を増幅させている。そこで将来の健全かつ円滑な部活動の推進を図るため部活動における指導者の指導目標、価値思考についての日下修次氏(日大鶴ヶ丘高校)の調査資料を基に、生涯スポーツと高体連部活動との関わりを指導者の立場から検討した。

5) 9月29日(金) 15:00~

(1) 村山光義「本塾入学生の運動経験、実施の種目および頻度について - 必修時の資料から -」

体育科目の新たな改革とスポーツ振興を目指し、大学入学生のスポーツ行動、特に必修体育時の学生の動向として、運動経験・実施状況を、頻度、種目別に考察した。調査対象は、1989-1992年度の4年間の入学生で、授業内に行われた体力測定記録用紙に記入された個人の運動経験と実施内容を集計した。入学後の運動実施者は男子50%、女子60%であった。また入学後、運動頻度は平均6日/週から1-2日/週へと減少した。また、入学後の運動頻度は入学以前の運動頻度とは無関係であり、大学生活における運動機会減少はそれまでの経験とは関係がなかった。実施種目の上位は、男子の入学前でサッカー、バスケットボール、テニス、陸上競技、ソフトテニス、入学後、テニス、軟式野球、サッカー、ゴルフ、スキーであり、女子の入学前がテニス、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、ソフトテニスから入学後、テニス、ゴルフ、スキー、バドミントン、ダンスであった。従って、テニス、ゴルフ、スキーといった種目が男女共通で実施されており、これらの種目への対応が今後のポイントと考えられた。また、2年生以上の調査、カリキュラム改定後の調査が今後の課題とされた。

(2) 吉田泰将「昭和初期の学生剣道界-全日本学生剣道連盟創設について-」

昭和初期における学生剣道界が剣道界全体に及ぼした影響は多大なものがあった。剣道そのもののレベルの向上はもとより、審判制度の運営改革にも貢献したものであると言われている。当時の一般剣道が伝統の殻に閉じこもりがちな大日本武徳会中心であったのに対して、自由な立場から活発な動きを見せた全日本学生剣道連盟の事業は、逆に剣道界全体の流れをリードする形となった。その活動の中で慶應義塾体育会剣道部の諸先輩方が重要な役割を担っていたことを報告した。

(3) 松田 雅之「陸上競技界におけるドーピングの現状」

現在、スポーツ界において、ドーピング問題は避けては通れない重大な局面を

むかえている。特に、1988年のソウルオリンピックにおいて、陸上競技100mでベン・ジョンソン選手がドーピング検査で陽性となり、スタノゾロールの使用が判明し、メダルを剥奪され、その後の再使用により陸上界から永久追放となった。今回は、ドーピングの現状を、陸上競技の現状から検討し、IAAF（国際陸上競技連盟）のドーピング検査の実情や、第18回ユニバーシアード福岡大会陸上競技大会におけるドーピング検査の実情などを報告した。また、過去10年間の投擲種目の記録の推移から、ドーピングまたはアンチ・ドーピングの影響などについても考察を試みた。

6) 10月27日(金) 15:00~

(1) 野口和行「アウトドアレクリエーション実習における学生による授業評価」

大学審議会の各種答申(1991)によって、高等教育機関に自己評価の努力義務規定と項目や方法等に関する実施体制が義務づけられることになり、自己評価の一環として学生による授業評価に関する関心が高まっている。そこで、平成7年度より新たに導入されたアウトドアレクリエーションの授業を事例に学生による授業評価に関する調査を行うにあたり、過去の研究をレビューし、平成7年度のアンケート調査の結果、学生の感想を抜粋した。そこから集中授業における授業評価の方法について吟味し、考察を加えた。

(2) 清水直臣「外国人柔道修行者の実体に関する研究」

競技力でのびのびを削る韓国、ロシア、フランス、日本の柔道修行者の実体を比較考察した結果を紹介した。

7) 12月1日(金) 15:00~

(1) 安藤勝英「柔道審判規定の変遷」

柔道における審判規定の時代的移り変わりとそれに伴って柔道そのものがどのように変わっていったかについて、講道館柔道乱取試合審判規定や現在の審判規定を紹介しながら報告した。

(2) 今榮貞吉「新カリキュラムにおける体育実技に関する受講学生の評価ーキャリスセニックスに関してー」

新カリキュラム移行以後の体育実技(キャリスセニックス)を受講した学生に対して授業の目的(3項目)、授業の内容(3項目)、授業の効果(5項目)、指導方法、授業態度、受講後の満足度、施設・用具等、受講後の感想等の項目についてアンケート調査を行い、その結果を統計的に処理して、その要点を図を用いて説明し発表を行った。

8) 12月15日(金) 15:00~

(1) 高嶺隆二「着衣水泳の実施方法についてー履修者の感想文からー」

水難事故防止対策として、近年着衣水泳がクローズアップされている。しかし

ながら、その方法については確立されているとは言い難い。ここでは95年度シーズンスポーツ、通信スクーリングで着衣水泳を実施して、その受講生の感想文から着衣水泳を分析し、今後の実施方法について考察を試みた。

(2) 綿田博人「ベースボールと野球道」

アメリカで生まれたベースボールが日本に輸入され発展し、日本独自の野球体系が確立された。両者を比較し、類似点、相違点を探り、ベースボールの本質を追究した。

9) 1月26日(金) 15:00~

(1) 篠原しげ子「ダンス授業の展開」

大学で社交ダンスを教える意義、目的及び半期にわたる授業の展開、学生の反応、指導上の問題点などを紹介した。

(2) 佐々木玲子「大学生の日常生活における身体活動量の実態調査」

本研究は、学生の一般的な日常生活における身体活動量について、いくつかの客観的な指標からその実態をとらえることを目的とした。対象は、慶應義塾大学生18名であり、いずれも体力レベルは平均的範囲に属し、生活時間などの日常生活パターンも大学生としては平均的な一般学生であった。身体活動量の客観的指標としては、歩数、エネルギー消費量、心拍数変動を用い、平均的な日常生活1週間を連続して記録した。その結果以下のことが明らかになった。：本研究で用いたいくつかの指標によれば、日常の7日間を通じての身体活動水準は、運動を行うか否か、休日の過ごし方により、個人間の差が大きく異なる傾向がみられた。運動量は、歩行などの移動を伴う運動様式以外に、運動部、運動系サークル、体育実技の授業など、あらためて行う運動により確保できることが明らかであった。健康の維持・増進のため必要な運動強度、運動量は、特別運動をすることのない、一般的な学生の日常生活では確保できないことが推察された。

第 3 部 スポーツ振興分野

はじめに

体育研究所では平成6年度より、1) 塾生・塾員へのスポーツ振興、2) 塾内スポーツ施設の有効利用、を目的としたサービスとして、各種スポーツイベントを企画・開催、大学生生活懇談会主催の「スキーのつどい」への所員の派遣、所内施設の開放等の事業を行っている。

1. 各種スポーツイベントの開催
2. 大学生生活懇談会とのタイアップ
3. 所内施設の開放

1. 各種スポーツイベントの開催

塾生対象イベント

1) 第3回スポーツイベント「新入生歓迎バレーボール大会'95」

期 日：平成7年5月22日（月）、29日（月）、6月5日（月）

時 間：15:00～18:30

種 目：バレーボール（6人制）

会 場：日吉記念館

参加チーム：8チーム 参加者数76名

競技方法：4チームずつによるリーグ戦を行い、同一順位同士の順位決定戦を行った

2) 第4回スポーツイベント「ミニサッカーリーグ'95秋」

期 日：平成7年11月11日（土）、11月18日（土）

時 間：10:00～15:00

種 目：7対7のミニサッカー

会 場：日吉陸上競技場

参加チーム：16チーム 参加人数177名

競技方法：4チームずつによる15分ハーフのリーグ戦を行い、各リーグ1位による決勝トーナメントを行った

教職員対象イベント

1) フィットネス教室

期 日：平成7年9月28日～11月30日 毎週木曜日（全8回）

時 間：16:45～18:00

会 場：体育研究所3F エクササイズスタジオ

内 容：ストレッチ、エアロビクス（エアロビックダンスエクササイズ）、リラクゼーション等、心身のリフレッシュのための運動

2. 大学生生活懇談会とのタイアップ

学生総合センター大学生生活懇談会主催の「スキーのつどい」に平成5年度より所員が参加教員として同行した。その中で、スポーツ振興分野において学生総合センターと体育研究所のタイアップの可能性を見出すことができた。そこで、学生総合センターの理解を得て、平成7年度は所員がスキーの指導も受け持つようになった。以下にその内容を報告する。

- ・ 第10回「スキーのつどい」 96年2月6日（火）～10日（土）
- ・ 主催 慶應義塾大学・学生総合センター大学生生活懇談会
- ・ 体育研究所所員参加者 植田史生 石手靖 田中伸明
- ・ 活動内容及び感想

参加者を上級者・初級者・初心者の3グループに分けて計6回の講習を行った。前回までは地元のスキースクールに指導を委託していたが今回より体育研究所が指導を任される形となった。

「スキーのつどい」の目的のひとつである塾生と教職員のコミュニケーションも参加教員とのゲレンデでの触れ合いが加わったことでより充実したものとなった。全日程を通じてスキーの技術修得にとどまることなく幅広い視野の下、素晴らしい企画として終了した。

3. 所内施設の開放

1) 体育研究所3F「エクササイズスタジオ」の開放

所内施設開放の一環として、3F「エクササイズスタジオ」を授業時間以外にサークル等に開放している。平成7年度は以下の団体がエクササイズスタジオを利用した。

- ・ ボクシング愛好会
- ・ 体育会応援指導部チアリーディング部
- ・ ディモンズスキークラブ
- ・ Keio Dance Crew JADE
- ・ チアリーディングサークル

2) 体育研究所1F「トレーニングルーム」の開放

所内施設開放の一環として、1F「トレーニングルーム」を授業時間以外に開放し、所員がトレーナーとなって、器具の説明、健康体カテストの実施、トレーニングプログラムの作成等を行っている。以下に平成7年度の活動報告をする。

a) 利用統計

表3-1 トレーニングルーム開放時間

春学期		秋学期	
月	9:00~16:00	月	10:00~16:30
火	9:00~10:45、12:15~16:00	火	14:45~16:30
水	9:00~13:00	水	10:00~13:00
木	9:00~14:45	木	10:00~13:00
金	昼休み	金	クローズ
土	10:45~14:45	土	10:30~14:00

表3-2 トレーニングルーム利用者数(延べ人数)

	1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	延べ数	Time	avg.
春学期	83	122	240	205	88	738	158	4.7
秋学期	31	135	156	19	90	431	143	3.0
年間	114	257	396	224	178	1169	301	3.9

b) 健康体カテストについて

トレーニングルームでは、希望者を対象に以下の種目からなる健康体カテストを行っている。このテストは Health Related Physical Fitness の評価が重要であるという概念に基づき、体育研究所にて種目を選定したテストである。

健康体カテストの測定項目

- | | | |
|---------------|--------|-------|
| ・身長および体重 | | |
| ・体脂肪率 | 身体組成 | の評価種目 |
| ・長座位体前屈 | 柔軟性 | 〃 |
| ・30秒上体起こし(腹筋) | 筋持久力 | 〃 |
| ・エアロバイク | 心肺持久力 | 〃 |
| ・アネロダッシュ | 下半身パワー | 〃 |

表 3 - 3 健康体力テスト実施者内訳

学部	カード 作成者	テスト 実施者	テスト実施者内訳					
			男	女	1年	2年	3年	4年以上
文	59	48	15	33	43	5	0	0
経済	80	57	45	12	34	22	1	0
法	115	85	41	44	46	33	6	0
商	75	56	40	16	31	23	1	1
医	11	8	8	0	4	4	0	0
理工	131	99	75	24	81	14	2	2
教職	26	0	14	12	-	-	-	-
計	497	353	224	129	239	101	10	3

表 3 - 4 健康体力テスト実施データ

		身長	体重	体脂肪 率	長座体 前屈	上体お こし	170ml/kg	7分間の 歩
		cm	kg	%	cm	回	ml/kg	W/kg
MALE N=224	Mean	171.8	62.7	16.3	11.8	25.7	28.4	18.1
	S. D.	5.3	8.1	3.9	7.6	4.3	4.9	2.8
	MAX	191.0	110.0	34.7	33.0	39.0	51.7	27.1
	Min	156.6	40.0	6.3	-12.0	15.0	16.1	9.3
FEMALE N=129	Mean	159.6	50.6	23.4	14.0	17.7	22.8	12.3
	S. D.	5.4	5.6	4.0	6.4	3.7	3.4	2.3
	MAX	176.0	69.5	35.5	26.2	10.0	36.7	21.3
	Min	147.0	37.9	12.6	-4.0	29.0	15.4	6.4

編集後記

体育研究所将来構想委員長

「活潑の身体が無ければ、活潑の精神の居場所がない、まず獸身を成して後に人心を養え」と言う福澤先生が、慶應義塾の教育の中には生きている。

今、日吉の丘は夏。高々とそびえ立った銀杏並木は心地よい風の通り道。その右側には多くの木々に囲まれた競技場とキラキラと光るプールが広がっている。

そんな中で真夏の日差しを浴びながら、スポーツに熱中している塾生を我々の研究所からは眺めることができる。

我々、体育研究所における「健康・スポーツ」の研究は、人の生涯を左右する研究と言っても過言ではない。現代では、サイエンスの対象として捉えられている「健康・スポーツ」が、単なる鍛える体育から、充実した人生を送るための体育に変わりつつある。

それゆえ我々は、ひとりひとりが充実した人生を送るための研究が成される場を作り上げたいと思っている。

それに向けて、我々の現在の活動は、「高い国際的評価を受ける研究・教育機関への飛躍」と「二十一世紀を担う人物の養成」を目指す慶應義塾の方針に大きく貢献するものと確信する。

